

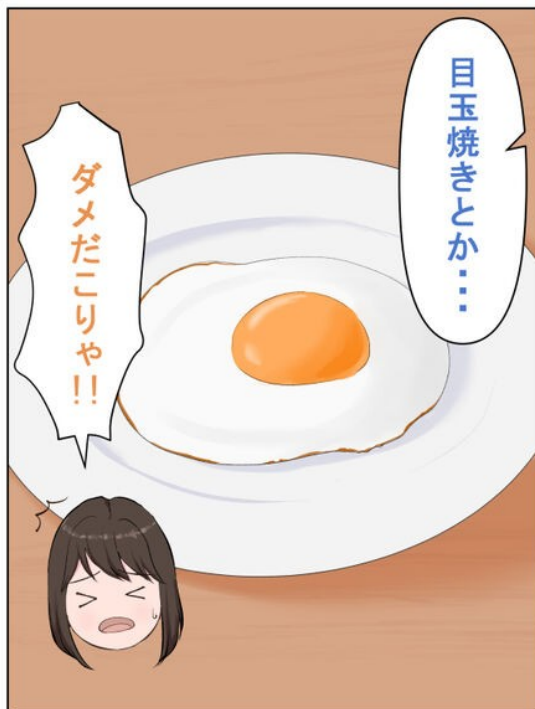


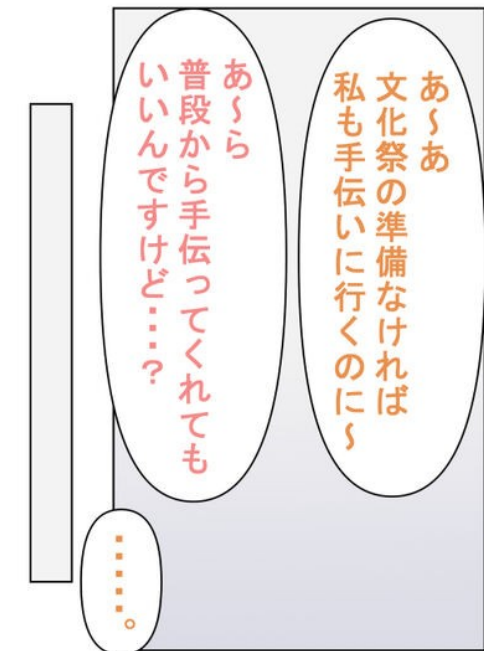
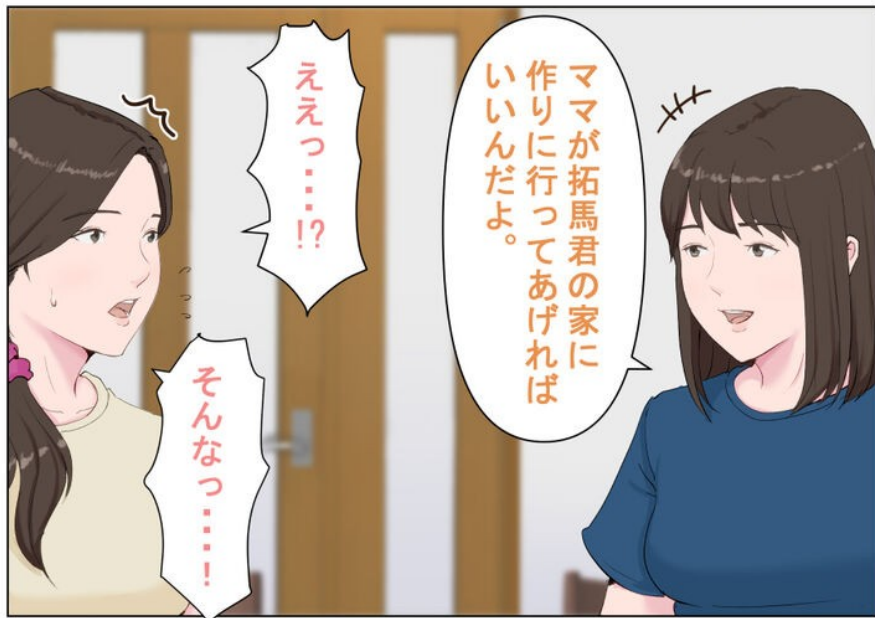
母に似たひと

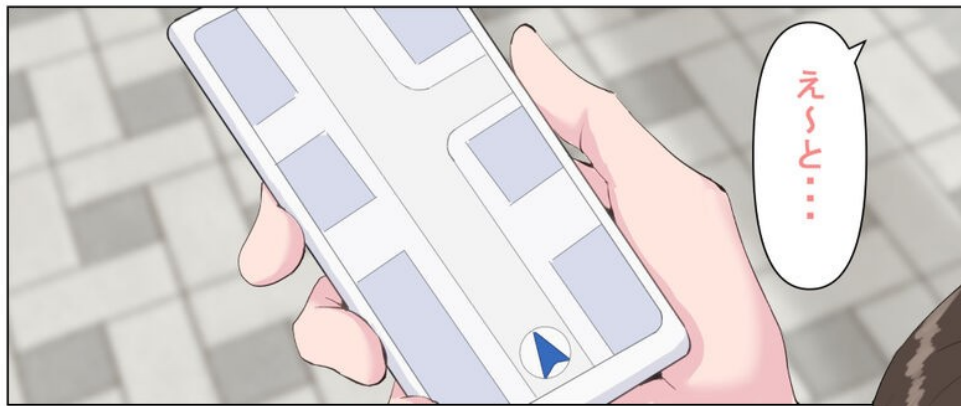
～後編～

ほーすている









え〜と…



ミーン  
ミーン



あっ…!!

ここだわ…



たぶんこの辺  
なんだけど…



ちょっと迷って  
遅くなっちゃった…。

拓馬君お腹空かせてなきや  
いいけど…

コッ  
コッ



へ？  
あ、ども……。

あ、  
こんにちはは

キヨロ



こういふとこに  
住んでるのねえ……

キヨロ

へ……  
拓馬君、

キヨロ

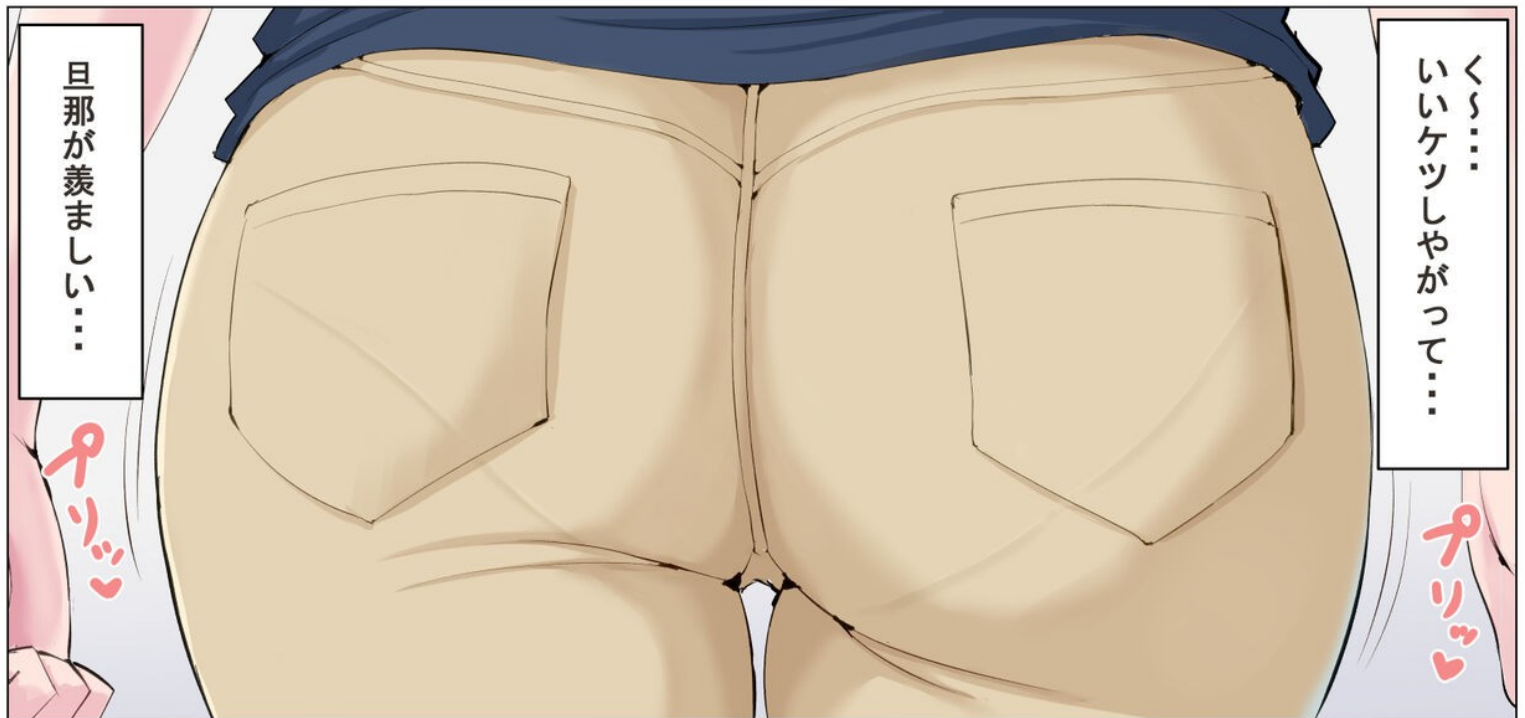


……。



あんな人  
居たかな……？

いい女だな……



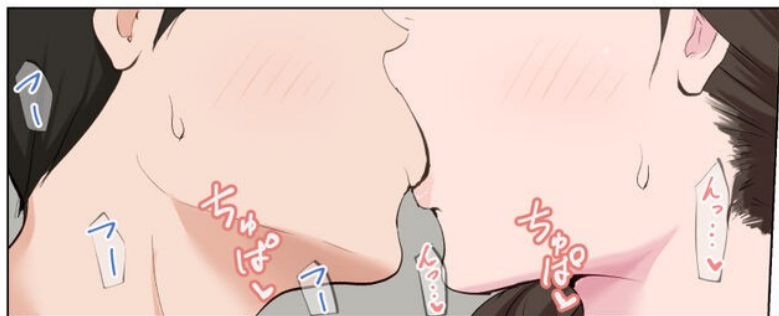
く……  
いいケツしやがって……

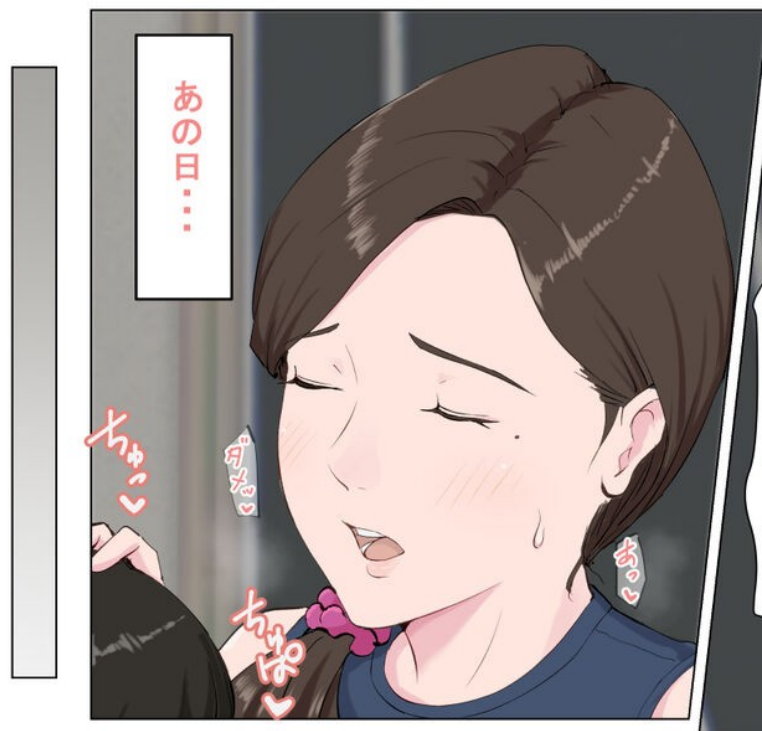
アツツ♡

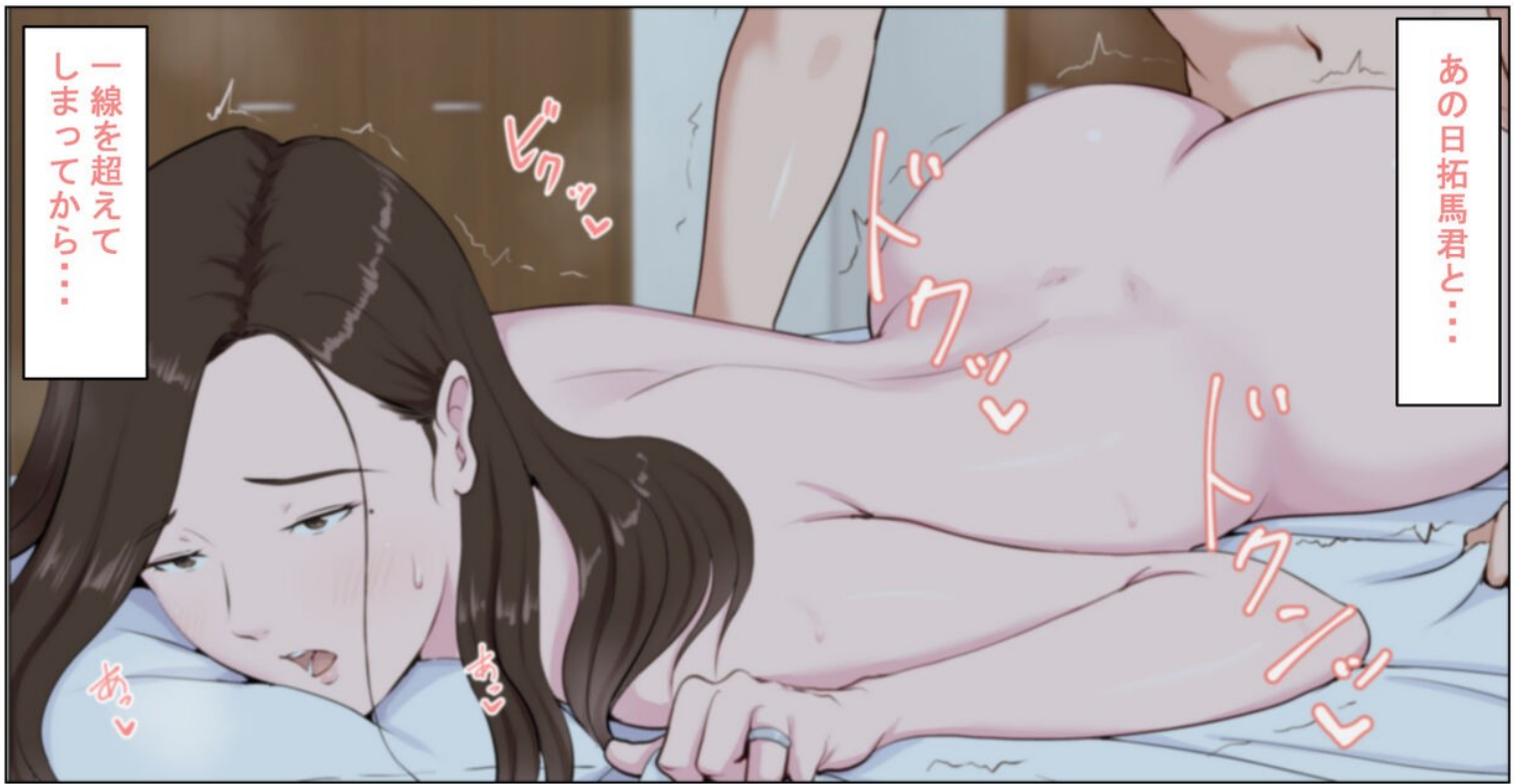
旦那が羨ましい……

アツツ♡









あの日拓馬君と……

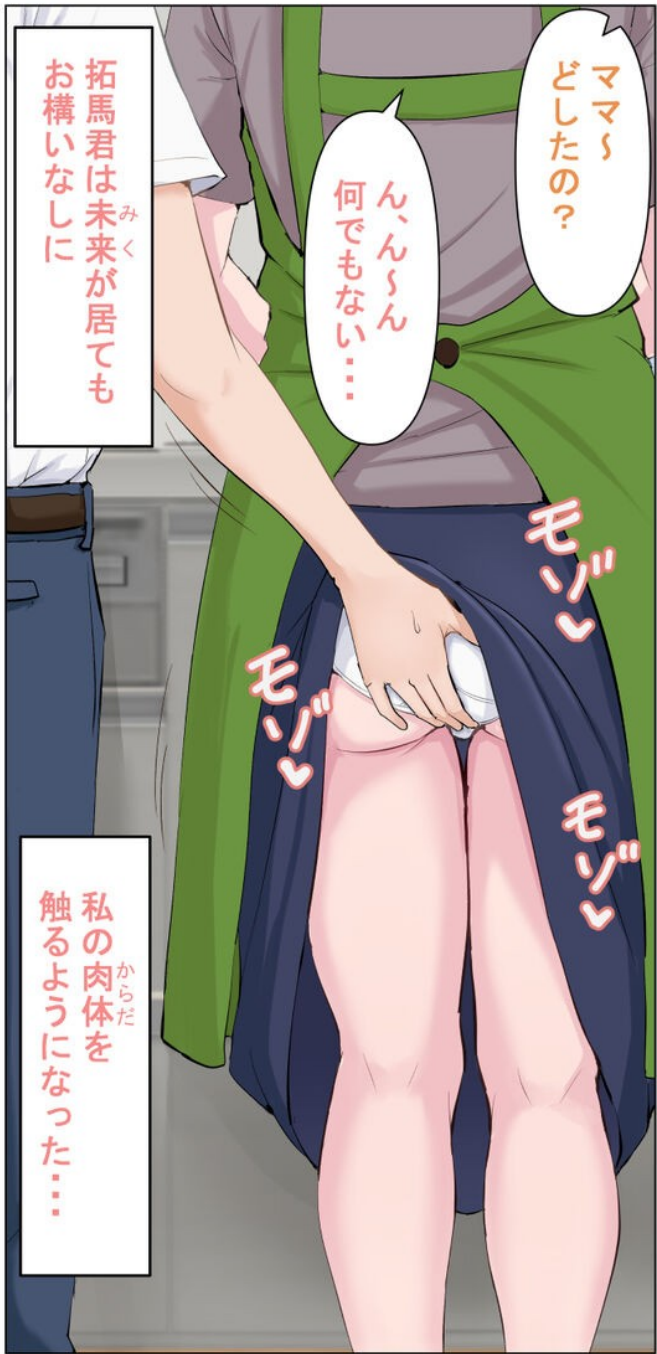
一線を超えて  
しまってから……

あ……

ドクッ

ドクッ

ドクッ



ママ、  
どしたの？

ん、ん、ん  
何でもない……

拓馬君は未来みくが居ても  
お構いなしに

モゾッ

モゾッ

モゾッ

私の肉からだ体を  
触るようになった……



片付け手伝います。

あら、ありがと。



ひゃっ……!?

ビクッ!

……



手や口で処理してあげていたが...

隙を見つけては



ダメッ...!!

拓馬君っ...!!

暴走する彼をなんとか宥めようとして...



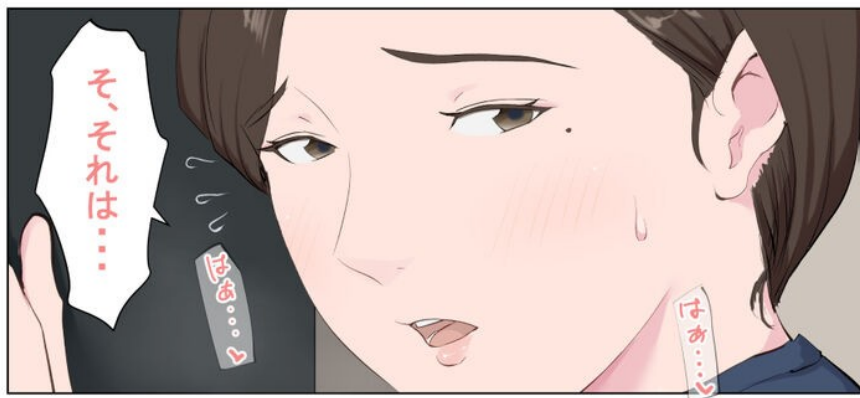
欲求不満を募らせただけなのかも知れない...

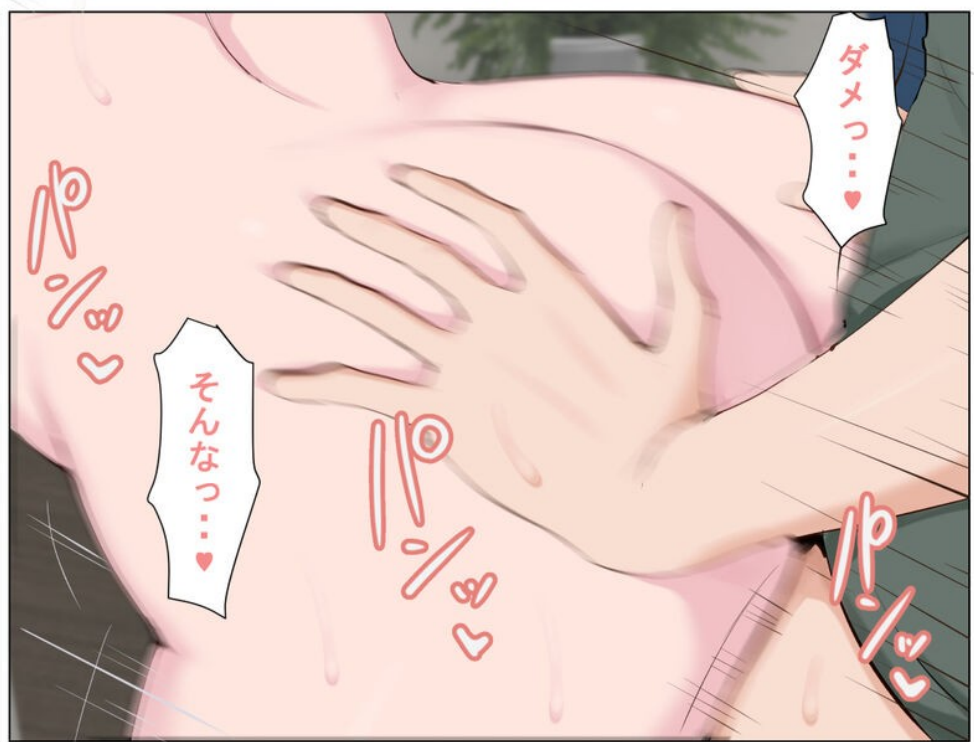


セックス行為を知ってしまった彼にとっては...

焼け石に水で...



















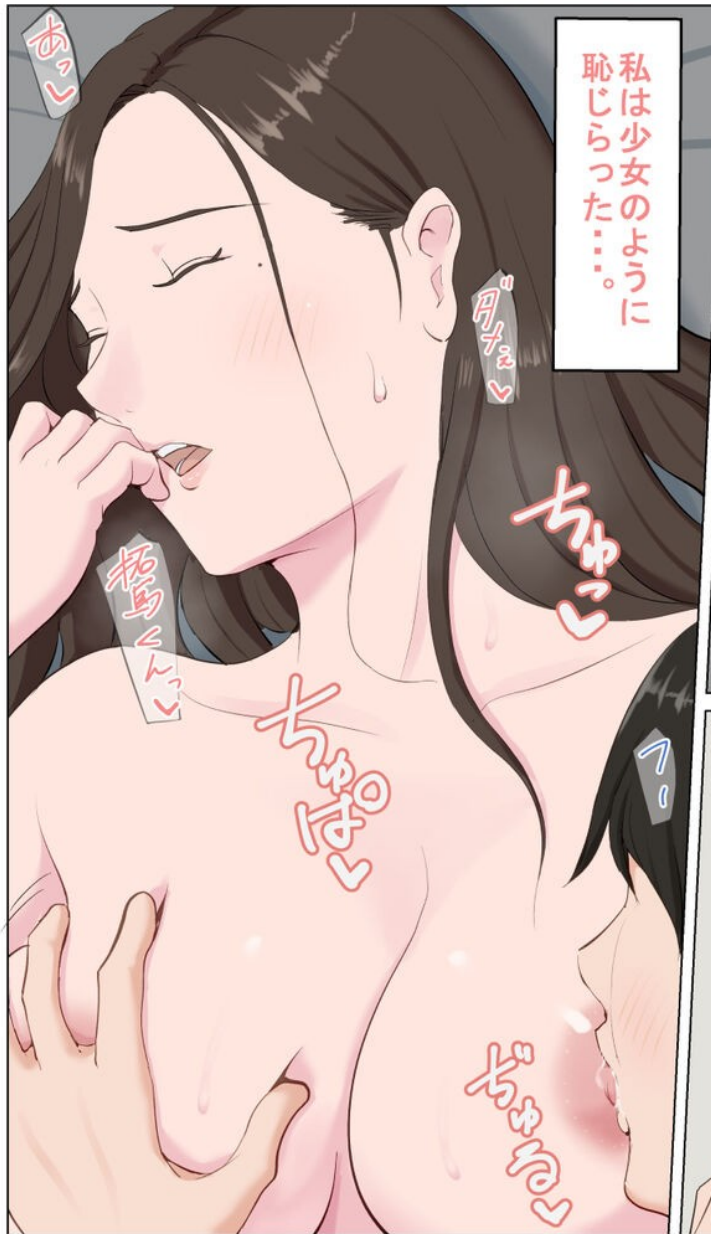


肉体の隅々にまで…



匂いの濃い箇所を  
重点的に…

何かを確かめるように…



私は少女のように  
恥じらった…



その舌を這わせ…











あの日もそうだったけど...

拓馬君のおっぱいへの  
執着はすごくて...



きっと私に...

母親の面影を  
重ねていて...



彼のその気持ちは...

なんとなく理解出来るのだけれど...

でも何故...

私の方までもが...

拓馬君...

愛おしく感じてしまうのだろうか...?

こんなにも彼を...







詩織さんっ...!!

うっっ...

くっっ...!!



あっ...♥

はあ...♥



拓馬君の性欲は  
衰える事なく...



ほとんど休む事無く  
腰を振り続け...

私の腔内<sup>なか</sup>で出せない  
鬱憤<sup>ふん</sup>を...

ううっ...

ドクン...

ドクン...

ドクン...

あっ...

射精<sup>で</sup>するっ...

ドクン...

ドクン...

はあ...

はあ...

ドクン...

はあ...

あっ...

はあ...

ドクン...

ドクン...

はあ...

すっ...

はあ...

びっけるせんじ...

ハア

ハア

ハア

ハア

何度も何度も...

詩織さんっ.....!

ああっ.....♡

あっ.....♡  
そこっ.....♡

ダメッ.....♡

私のからだ  
肉体が  
めがけて  
射精した.....♡

くっ.....!



はぁ.....♡

はぁ.....♡

はぁ.....♡

はぁ.....♡

はぁ.....♡

はぁ.....♡

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ

トッ  
トッ  
トッ  
トッ  
トッ



あつ...♡  
拓馬君っ...!!

もうっ...

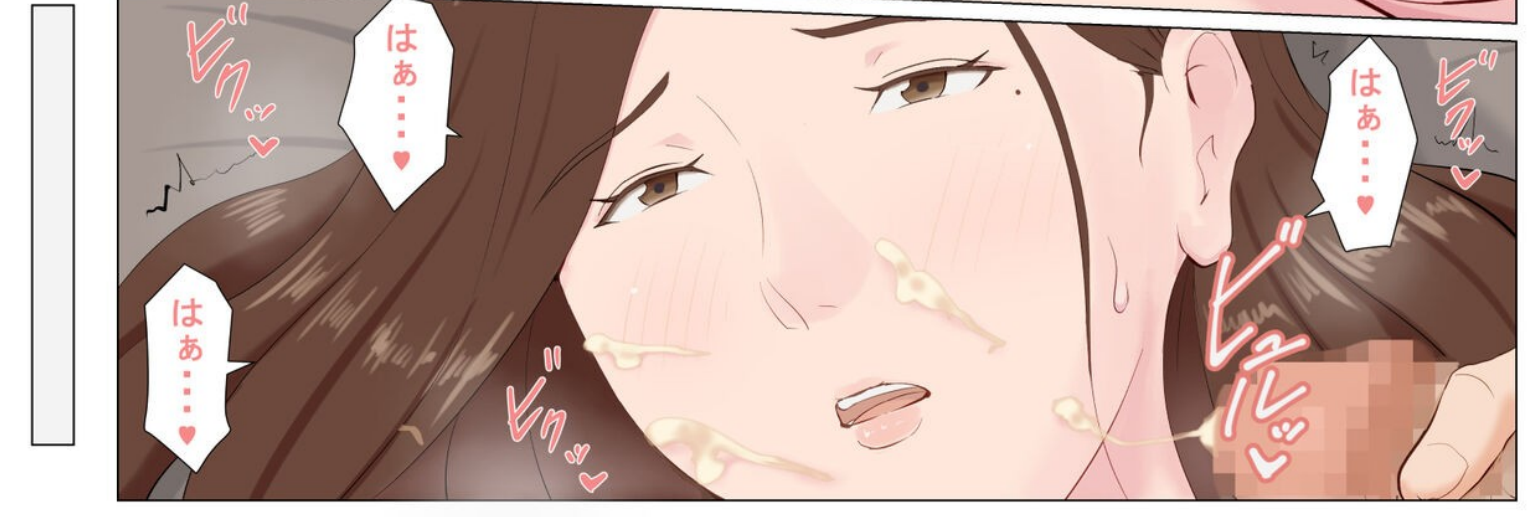
帰らないとっ...!!

くうっ...!!



射精るっ...!!

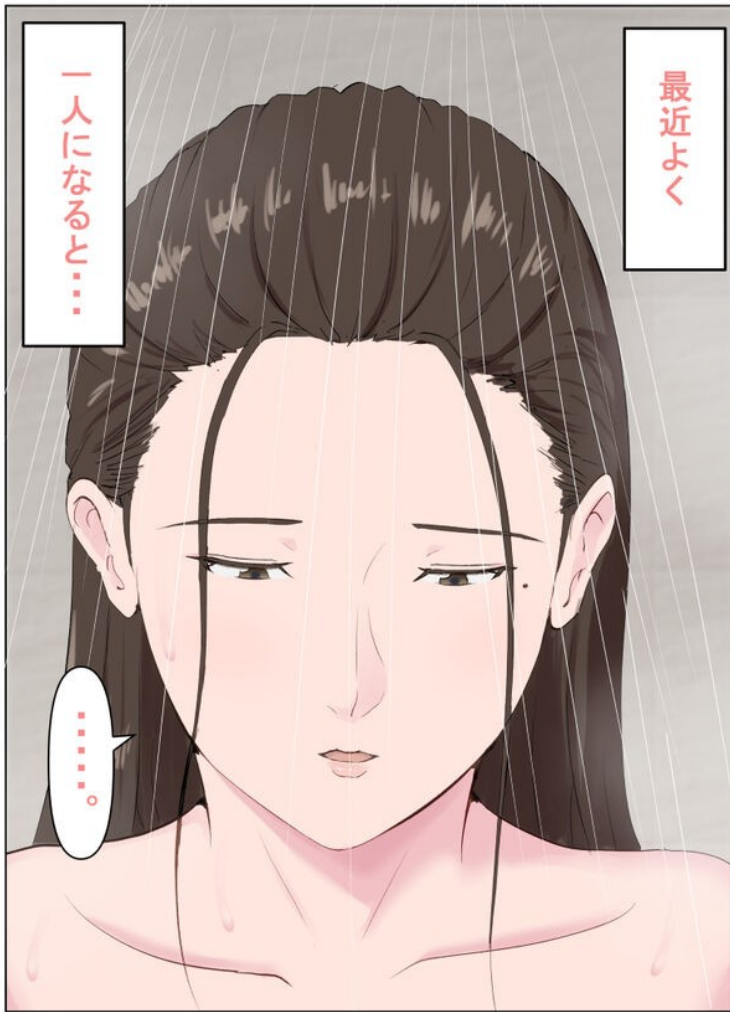
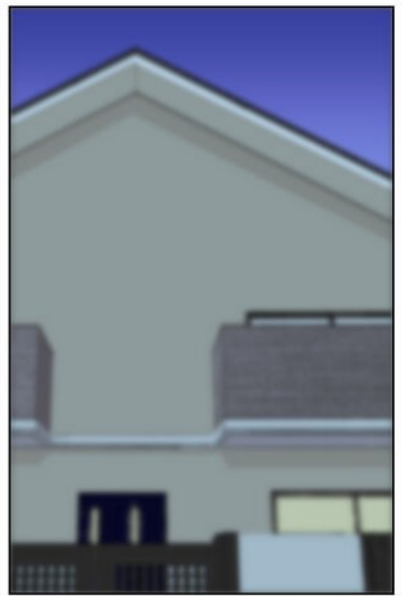
ああつ...♡



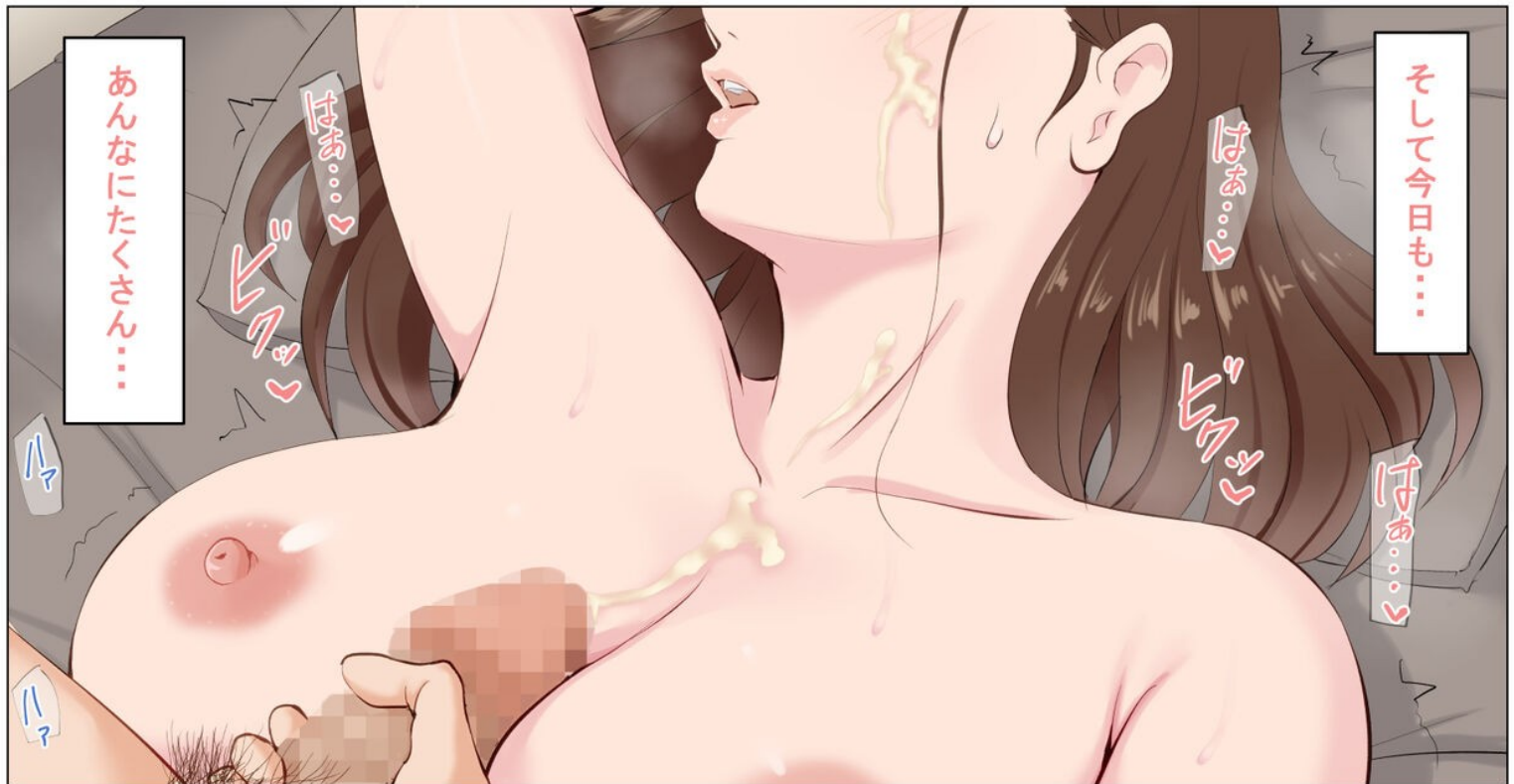
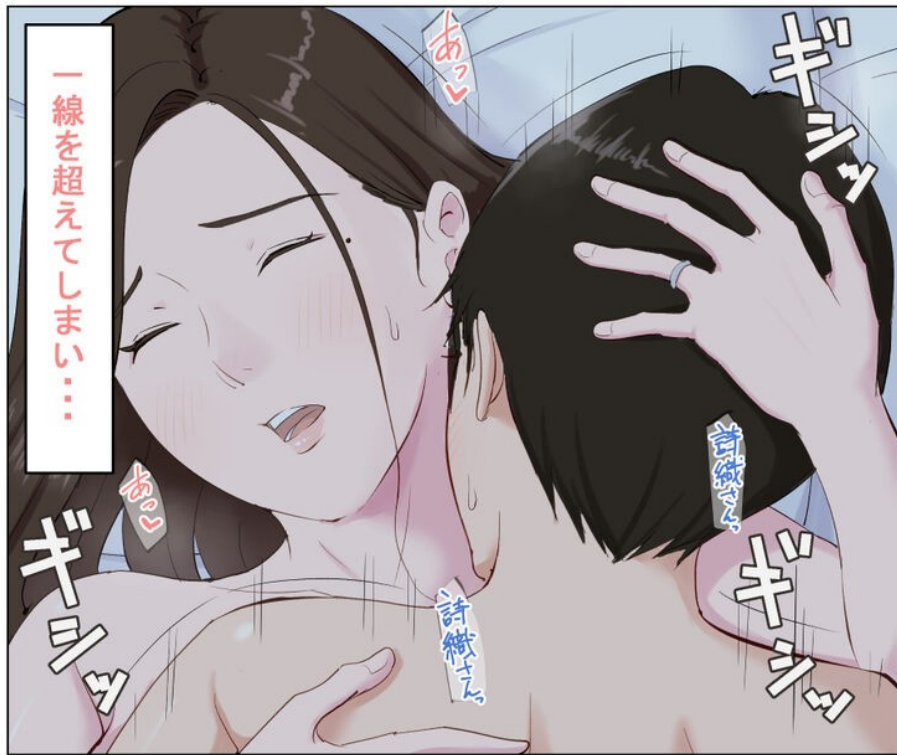
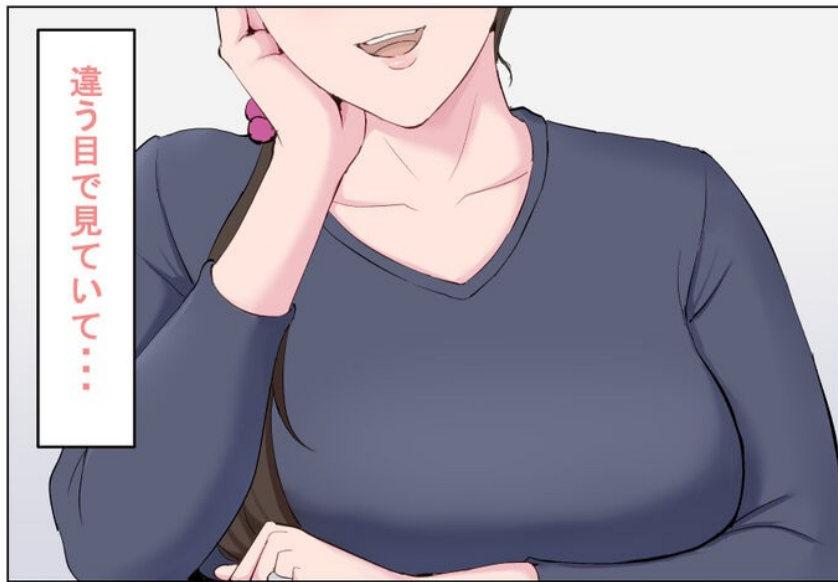
はあ...♡

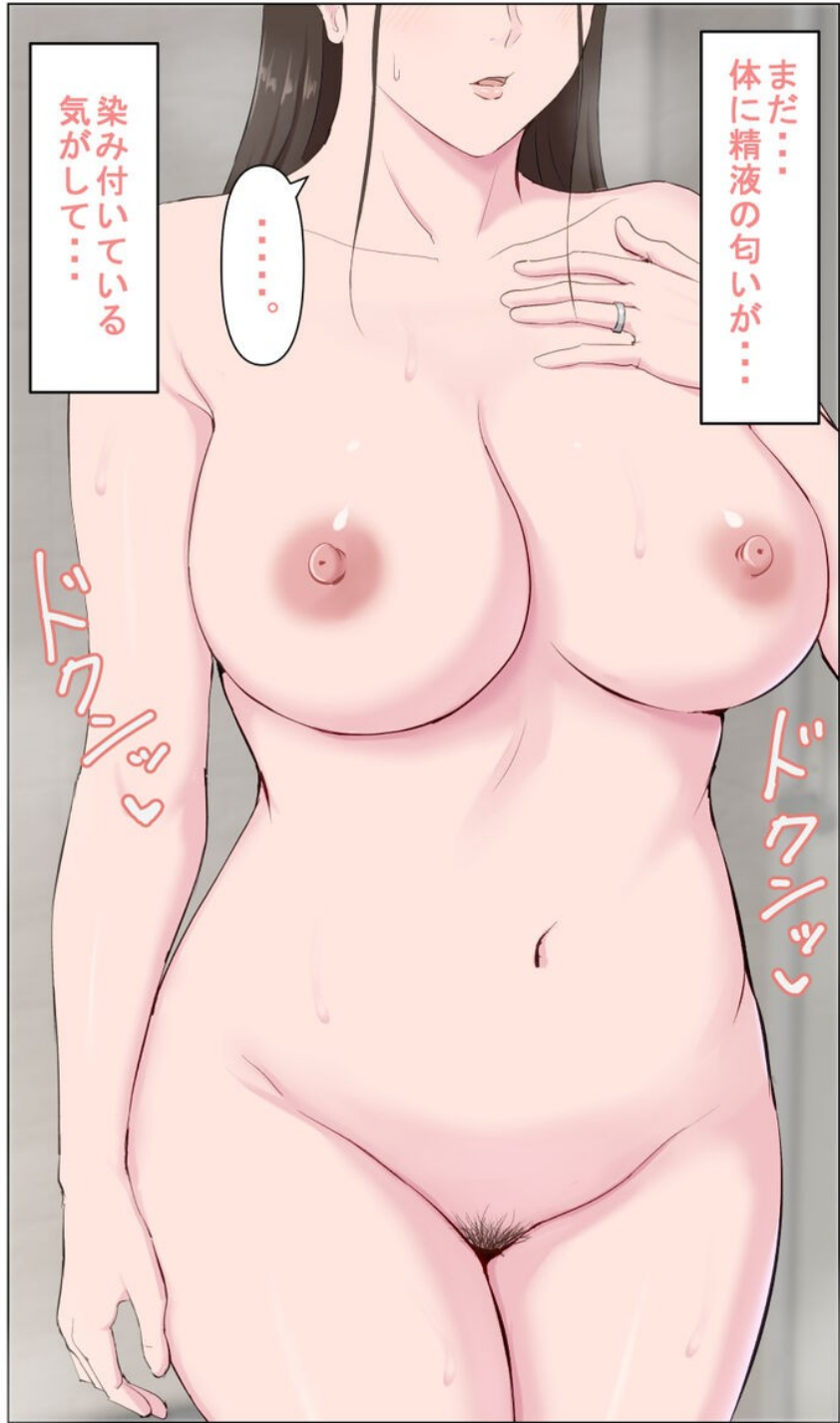
はあ...♡

はあ...♡



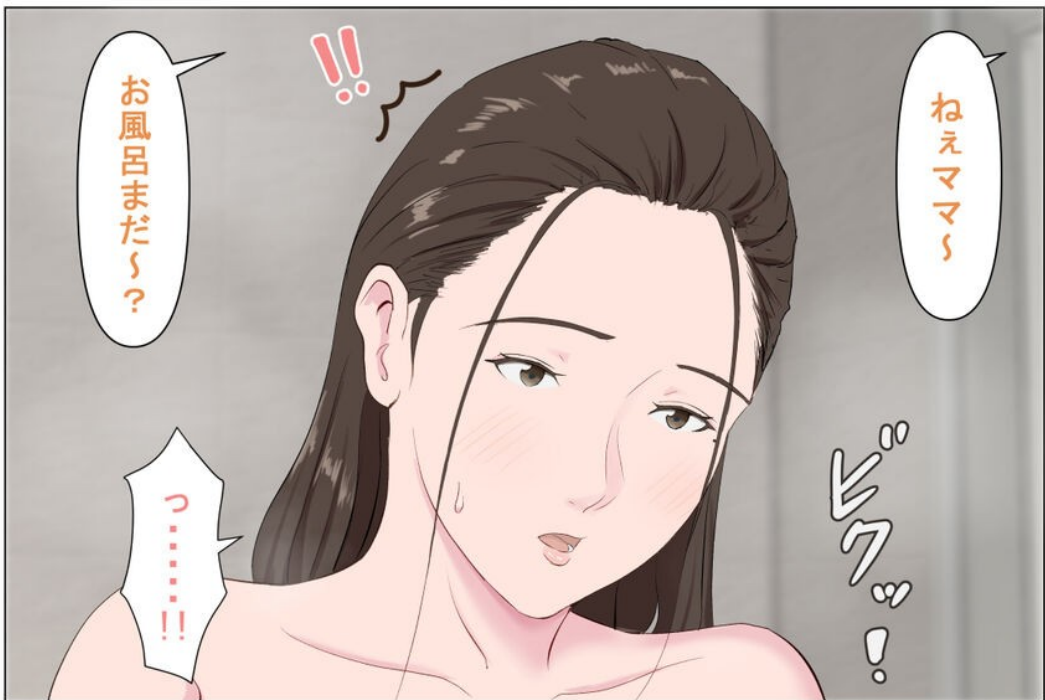






染み付いている  
気がして.....

まだ.....  
体に精液の匂いが.....

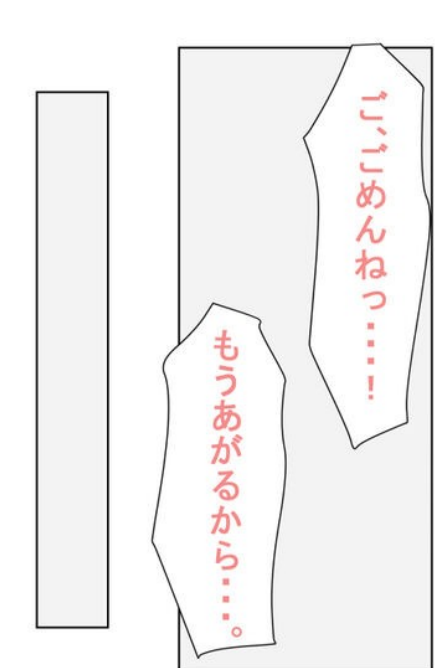


お風呂まだ？

ねえママ

っ.....!!

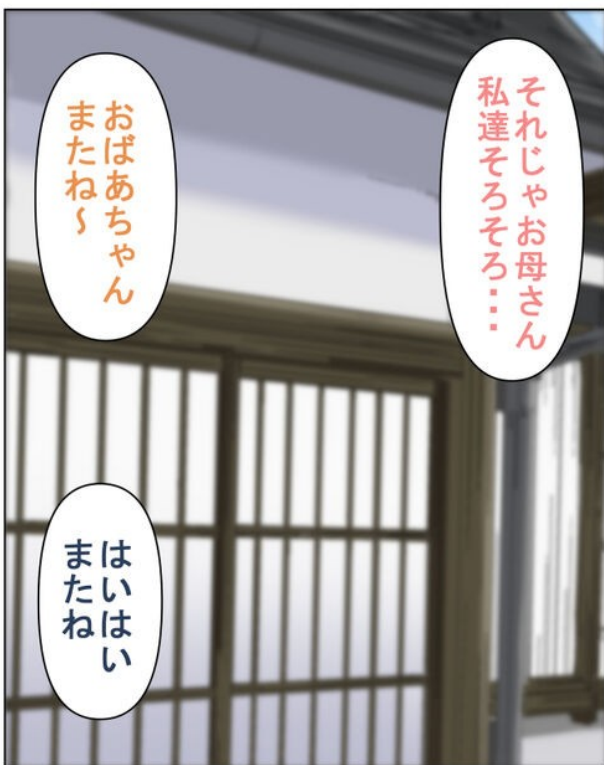
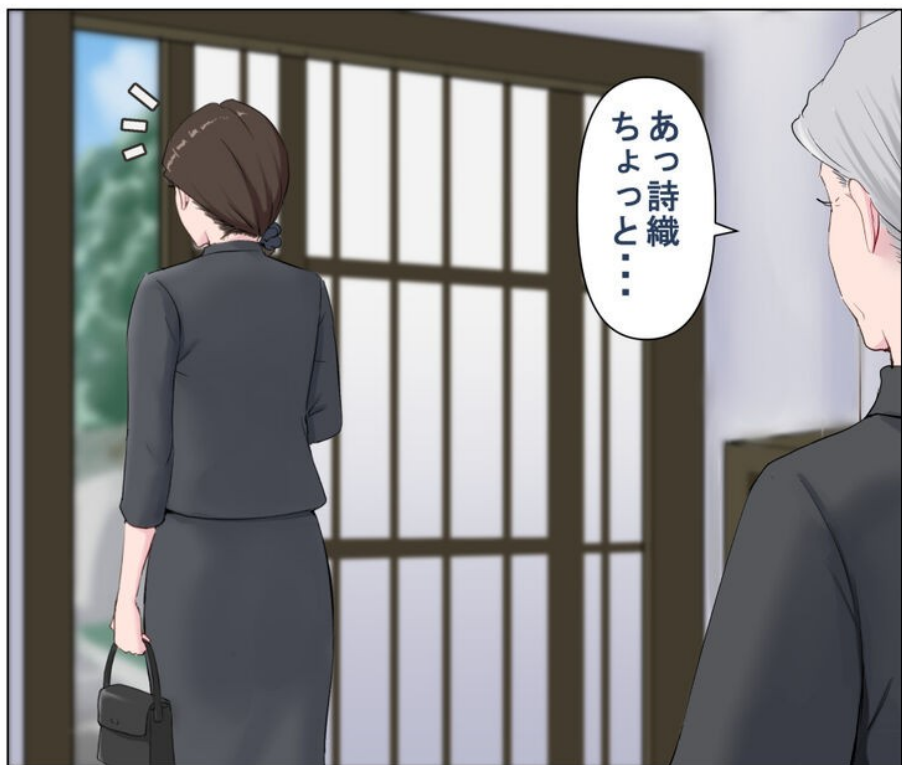
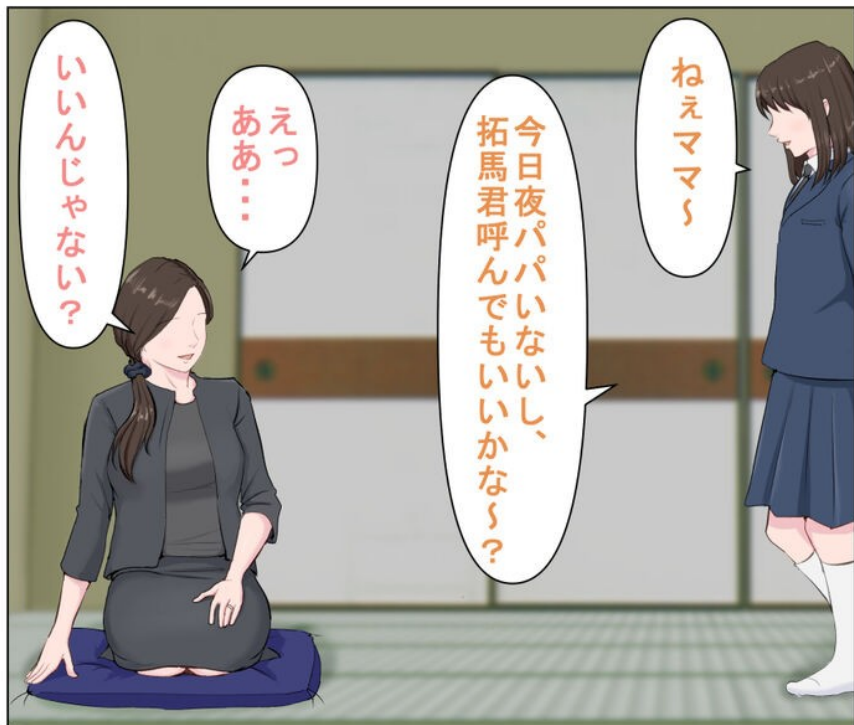
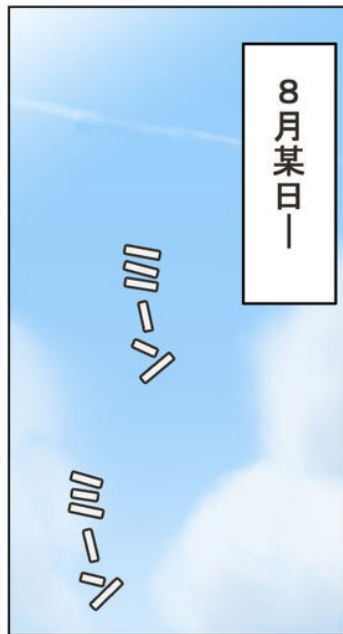
クワッ!!

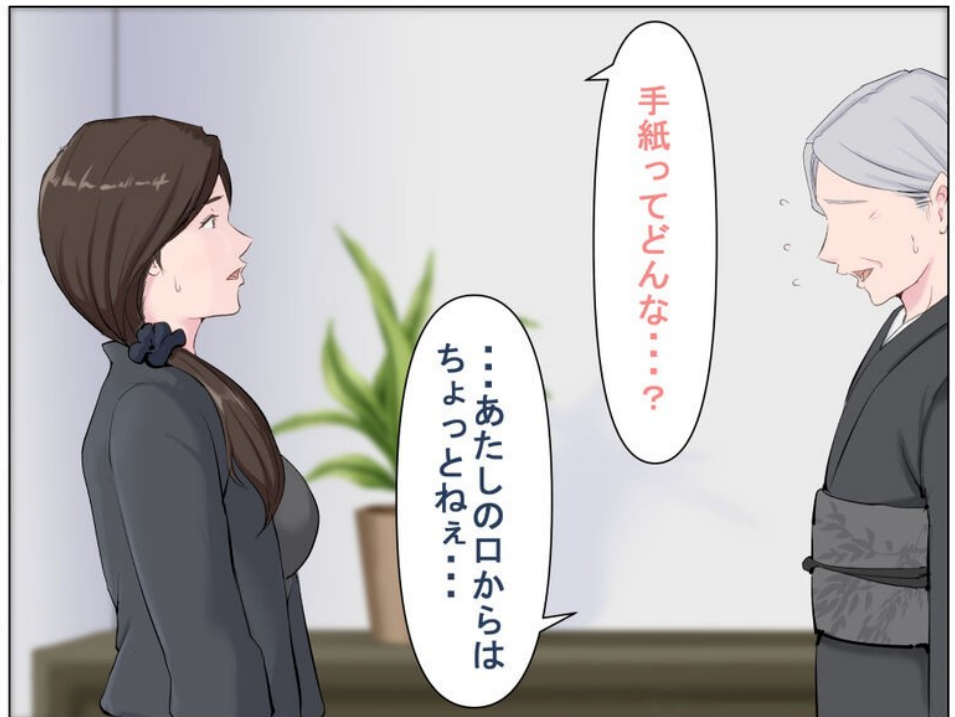


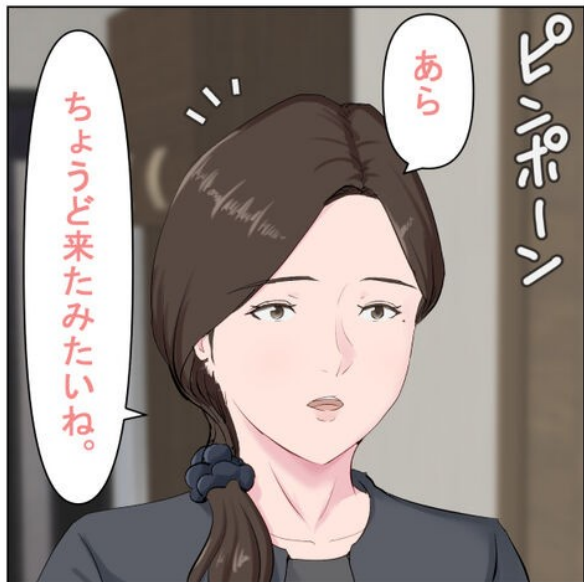
んっ...♡

もっあがるから.....。

んっ...♡





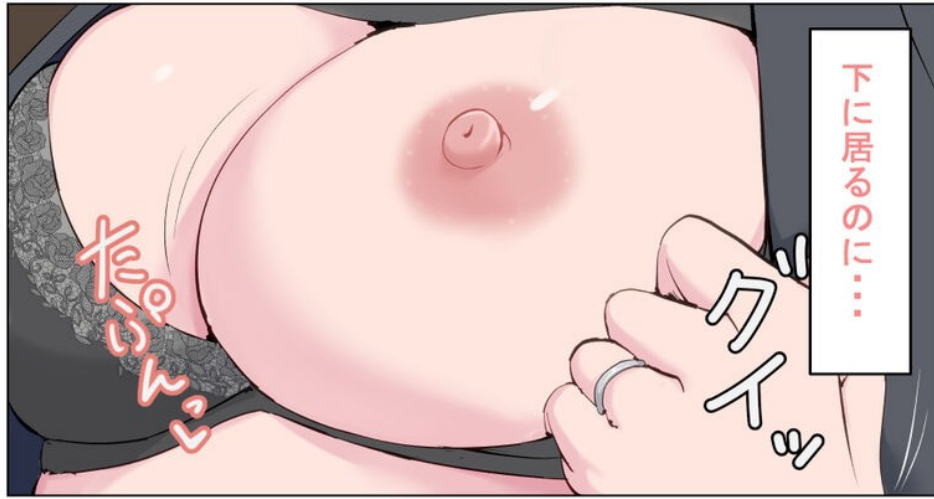




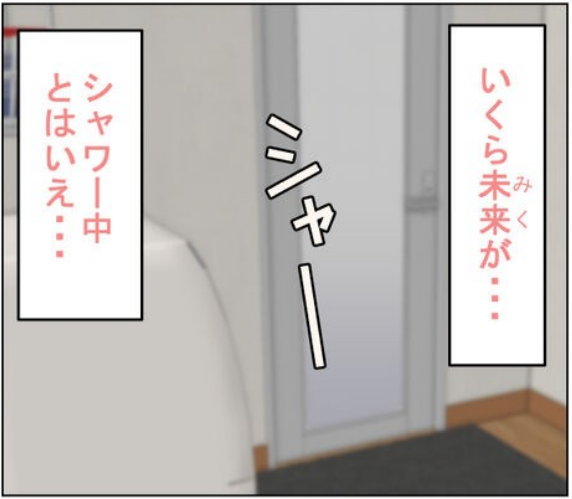








下に居るのに...



シャワー中  
とはいえ...

ニャー

いくら未来が...



どうかしてる...

ゴタッ

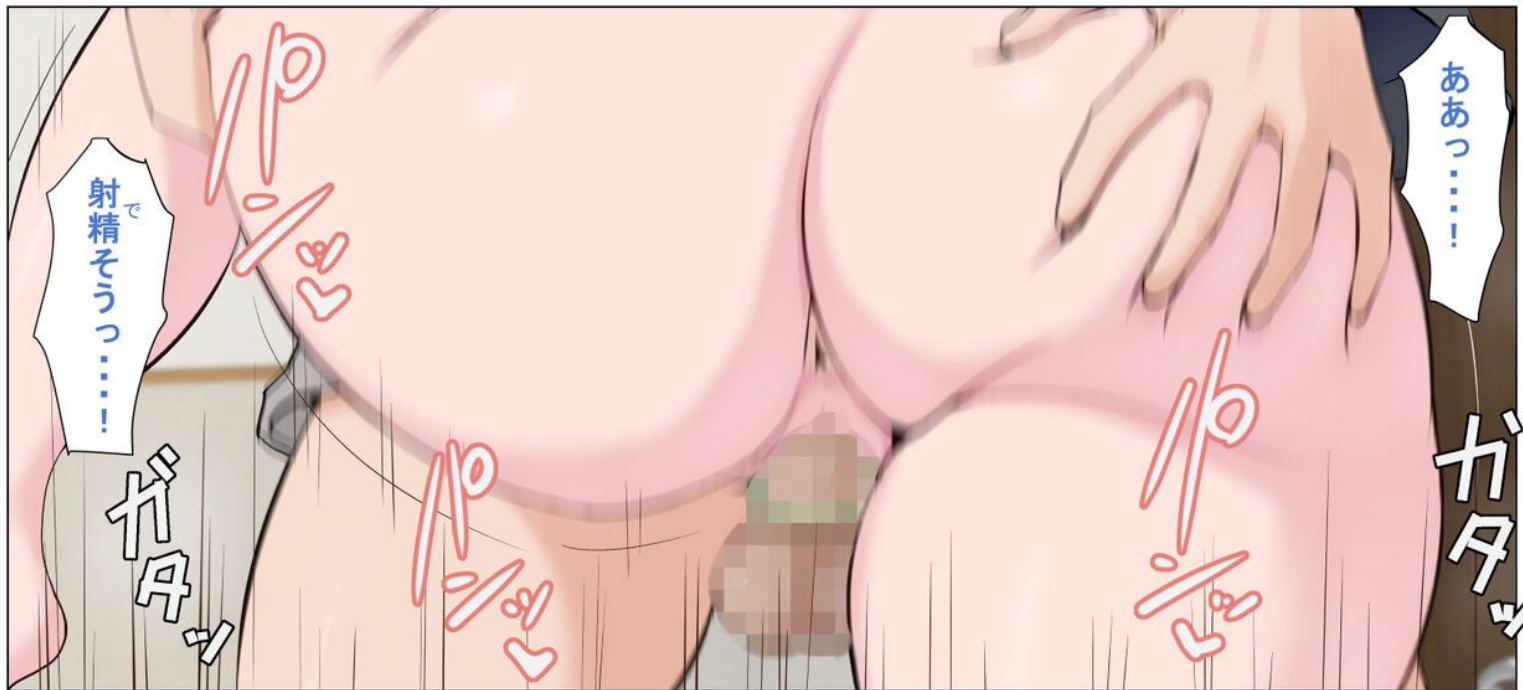


こんなの絶対...

ゴタッ

ゴタッ





ああっ……!

ガタッ

で  
射精そっ……!

ガタッ



いい感じ……

ムニッ

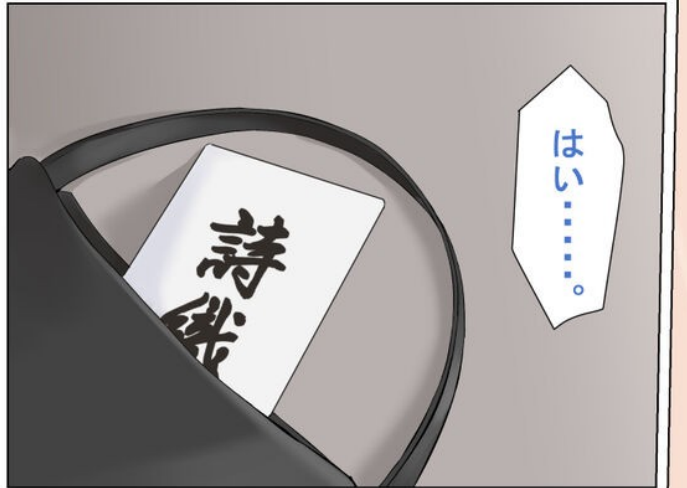
だ  
射精してっ……

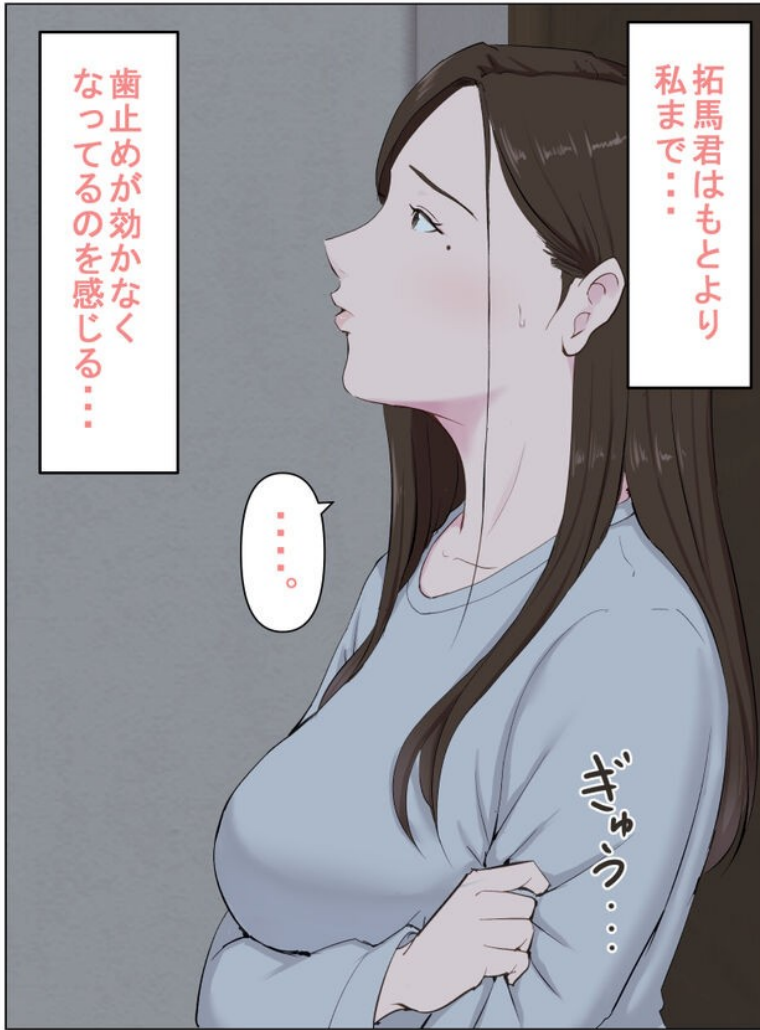


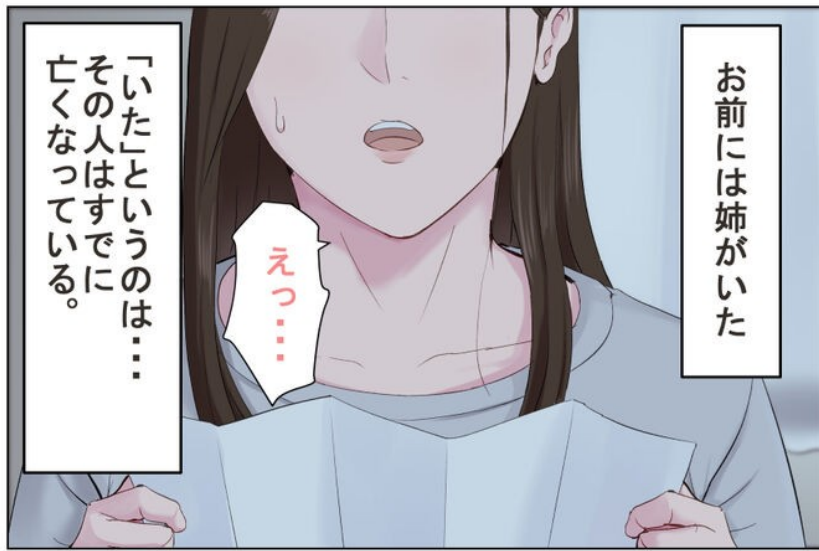
体につ……

体にかけていいっ……!?









お前には姉がいた

「いた」というのは…  
その人はすでに  
亡くなっている。

えっ…

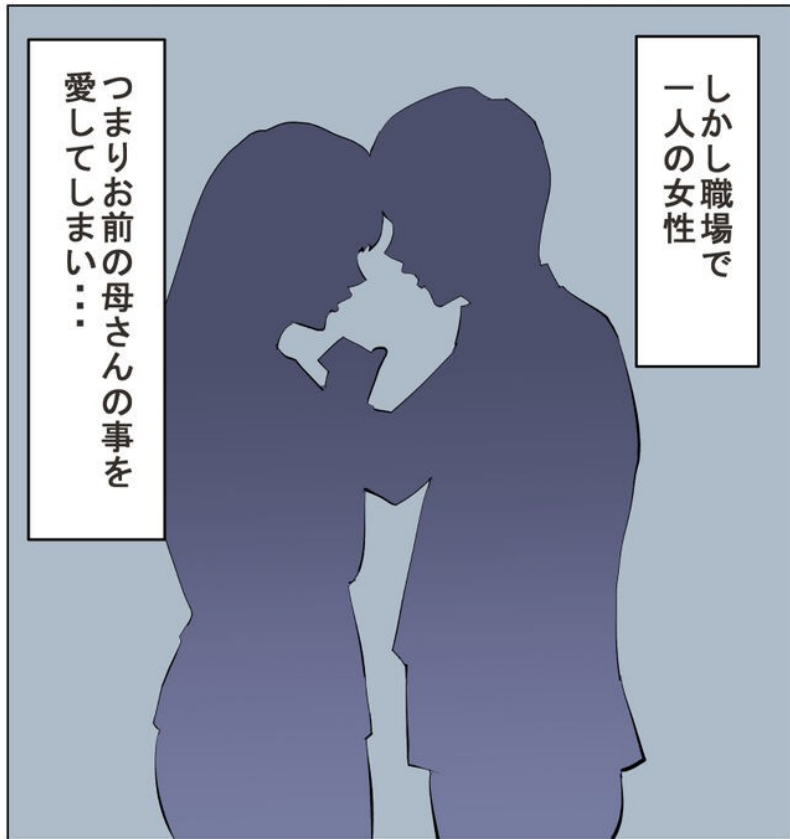


詩織へ

こんな形でしか  
伝えられなくてすまない

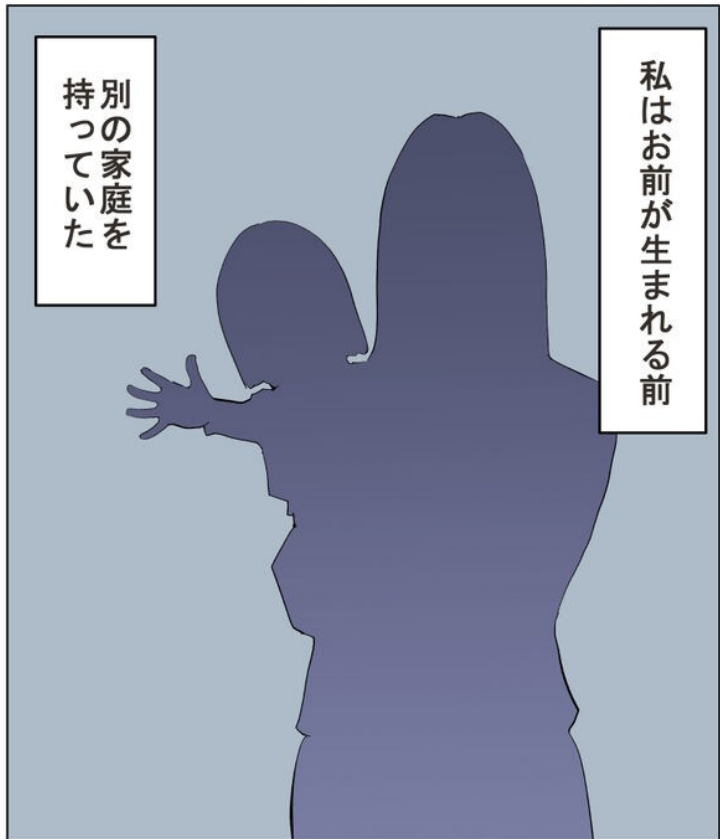
ずっとお前に秘密に  
していた事がある

ずっとお前に伝えら  
れなかった事がある  
が、お前がいた  
のは、



しかし職場で  
一人の女性

つまりお前の母さんの事を  
愛してしまい…



私はお前が生まれる前

別の家庭を  
持っていた



か、駆け落ちっ…!!?

そんな事…  
お母さんも一言も…



妻と幼い娘を  
置いて

駆け落ちした…。

その後前妻との  
離婚が成立し、

お前が産まれた。

当然だが  
残して来た娘……

美雪とは連絡を取ることも  
許されなかった……

物心ついたら話そう……  
成人したら話そう……

ずっと自分に言い聞かせて  
きたが……

娘のお前に  
娘を捨てた話を

どうしてもする事が  
できなかつた……

そして時が流れて  
一度だけ……

美雪が男の子を連れて  
私を訪ねて来てくれた事があった。

聞けばちょうど  
未来と同じ歳らしい……

その男の子の名は……



その後すぐに事故で亡くなってしまった...

美雪はこんな私を許し、また来ると言ってくれたが...



「たくま」.....



もちろんただの偶然かもしれない...

亡くなった母は詩織さんに少し似てるんです...

私に？

けれどこの時私は確信していた...



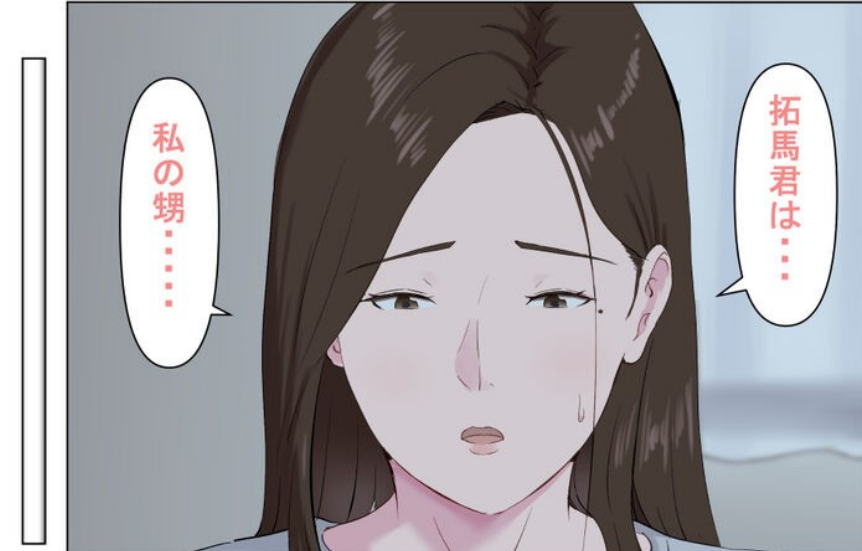
自分のしてきた事を今更どうこう言うつもりはない...

ただ、こんな形でも最期にお前に伝えておきたかった...



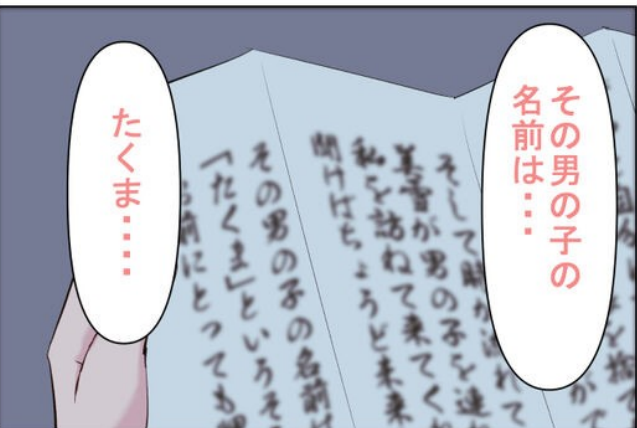
初めて会った時から

どこか放おっておけないような...



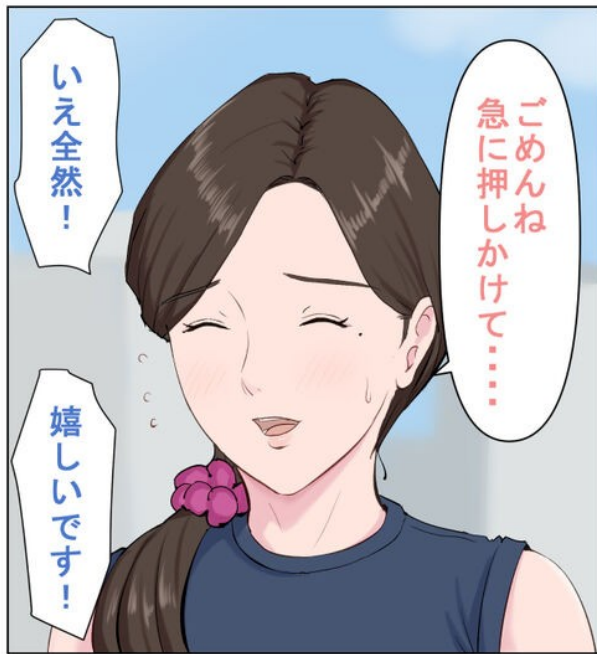
拓馬君は...

私の甥.....



その男の子の名前は...

たくま.....



いえ全然!

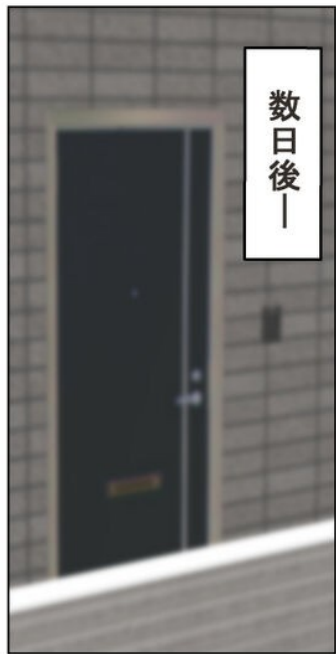
嬉しいです!

ごめんね  
急に押しかけて……



ガチャ

詩織さんっ……!



数日後ー



目元がお父さんに  
そっくり……

ああ……  
そうね……



急で申し訳ないんだけど……

お母さんの写真  
見せてくれない……?

えっ……  
母のですか……?

いいですけど……



拓馬君……

今から私が  
する話を……

落ちついて  
聞いてね……?

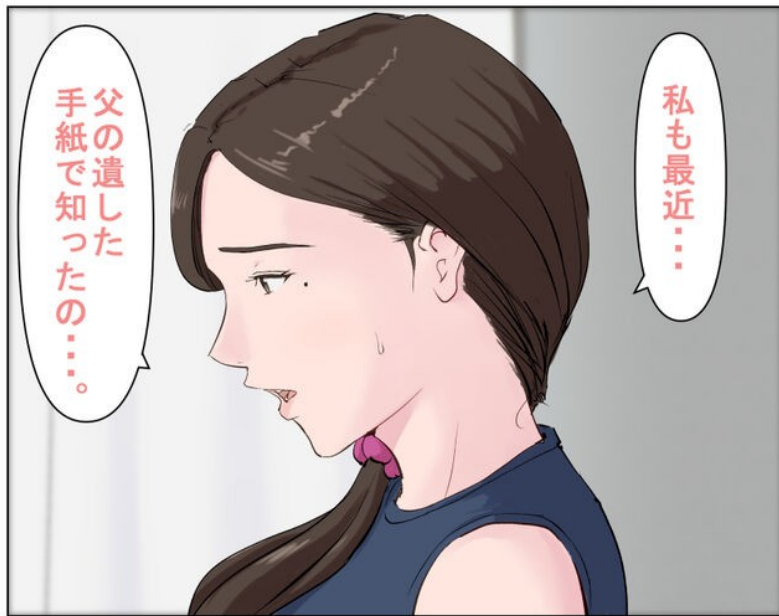


お母さんの名前は……

美雪であってる……?

えっ……!

何で知って  
るんですか……?



父の遺した  
手紙で知ったの……

私も最近……



詩織さんが……

俺の叔母さん……？



ごめんなさい……  
でも……

悲しいんじゃないんです……



泣かないで……

あつ……！  
ごめんね急にこんな話……



スー



拓馬君……

じわ……



ずっと  
詩織さんに……

母の面影を  
重ねて……

ちやんと繋がりが  
あったなんて……

それがただの  
思い込み  
じゃなくて……

グスッ



寂しかったね……

お母さん  
いなくて……



ア……



ママ……

ああ……  
なつかしい……



詩織さん……

じわっ……



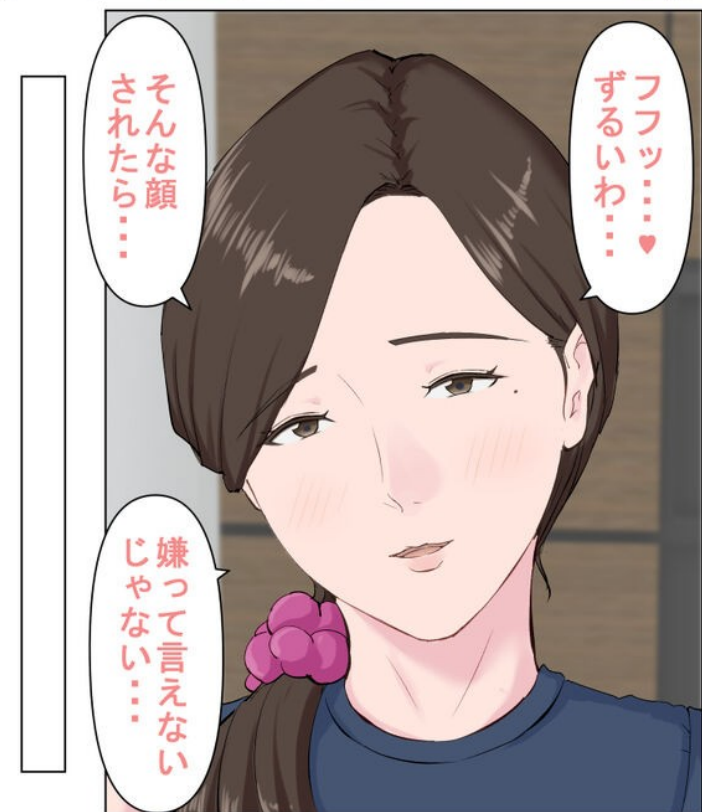
私の腕の中で  
静かに泣いた……。

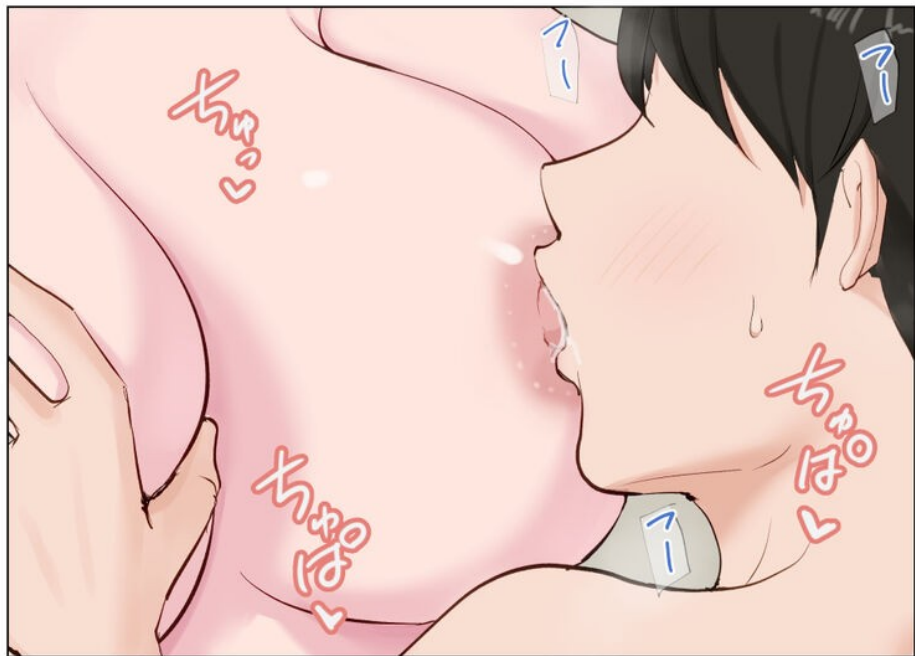
拓馬君は  
その後しばらく……



うっ……

うっ……





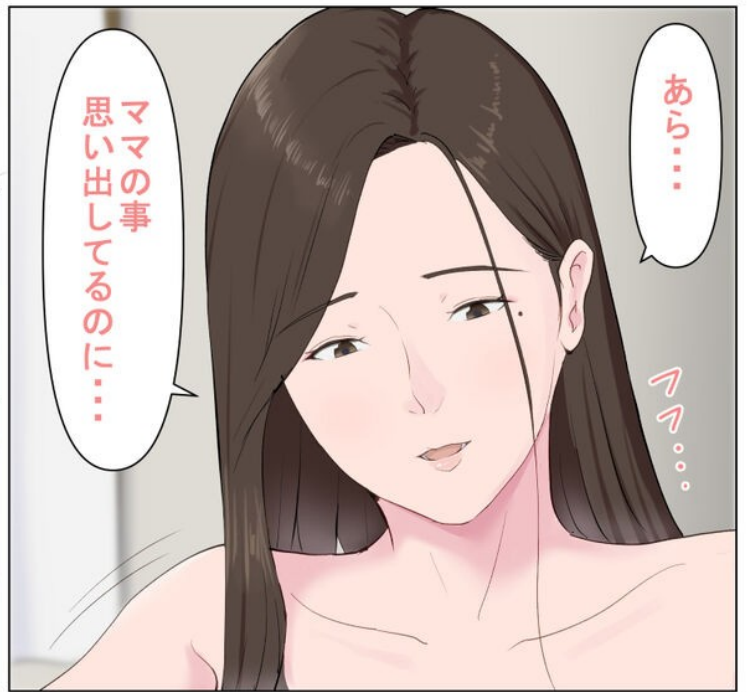
やっぱり詩織さんのおっぱい...

ママとおんなじ匂いがする...

さっきからずっと吸ってるけど...

フフ...

そんなにおいしい...?









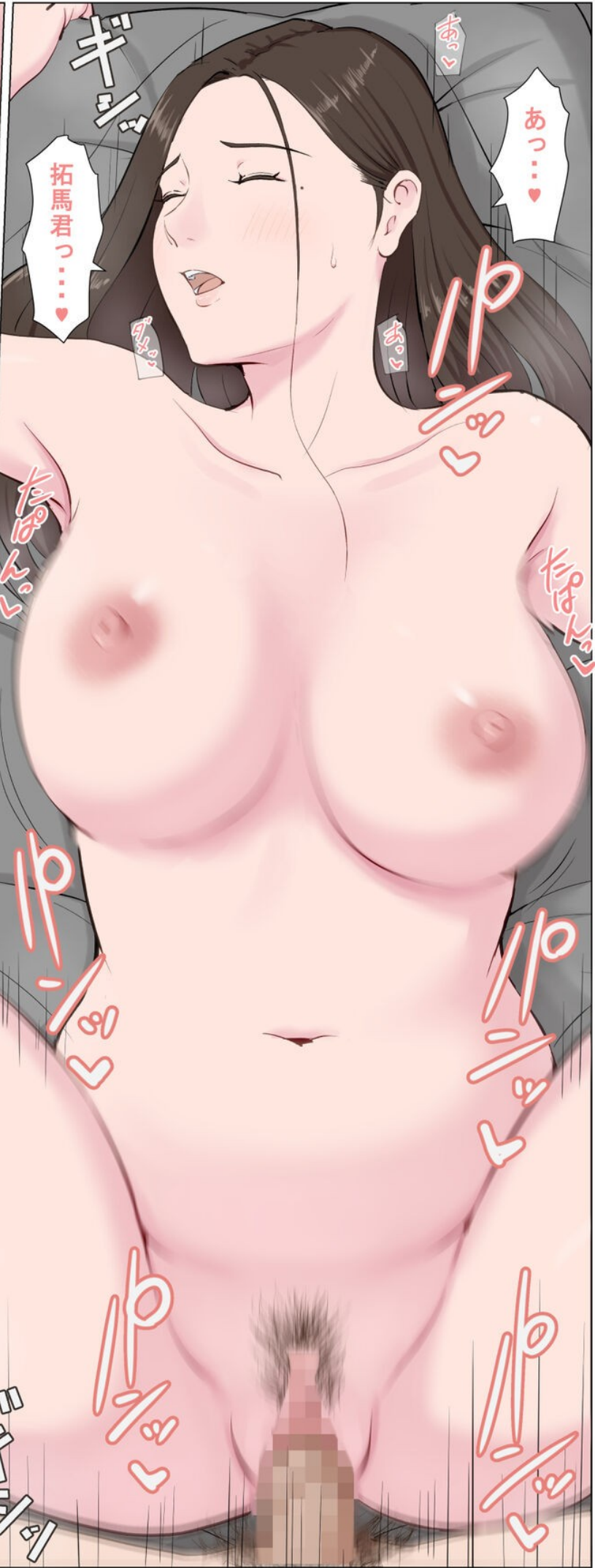






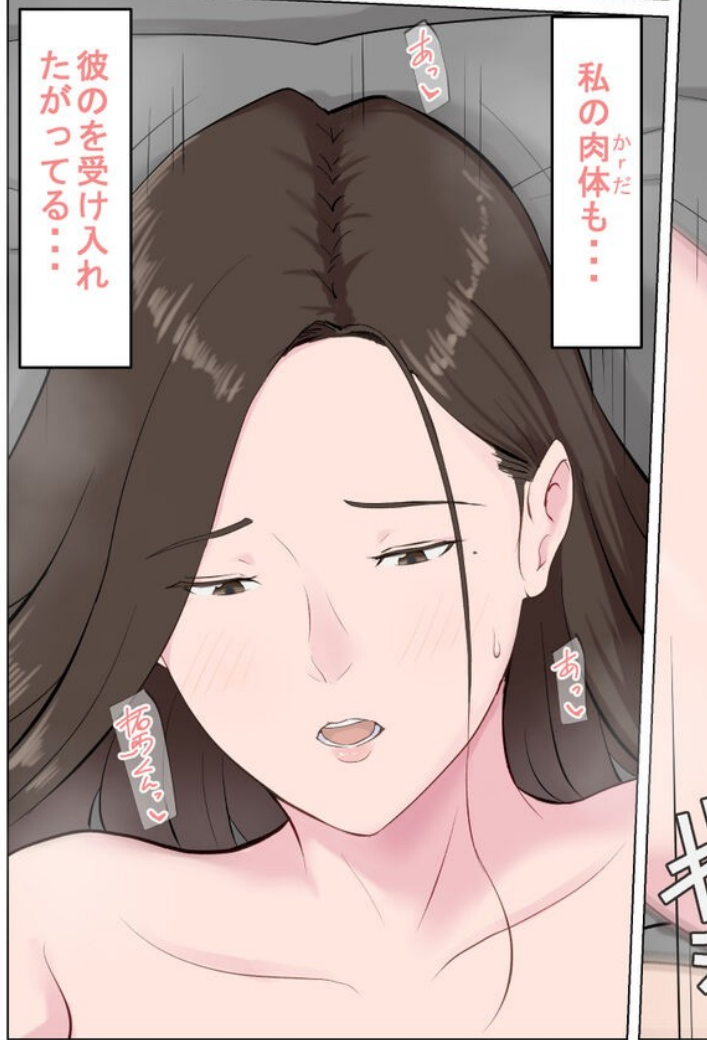
拓馬君の…

すぐに膣<sup>なか</sup>内で  
なじんで…



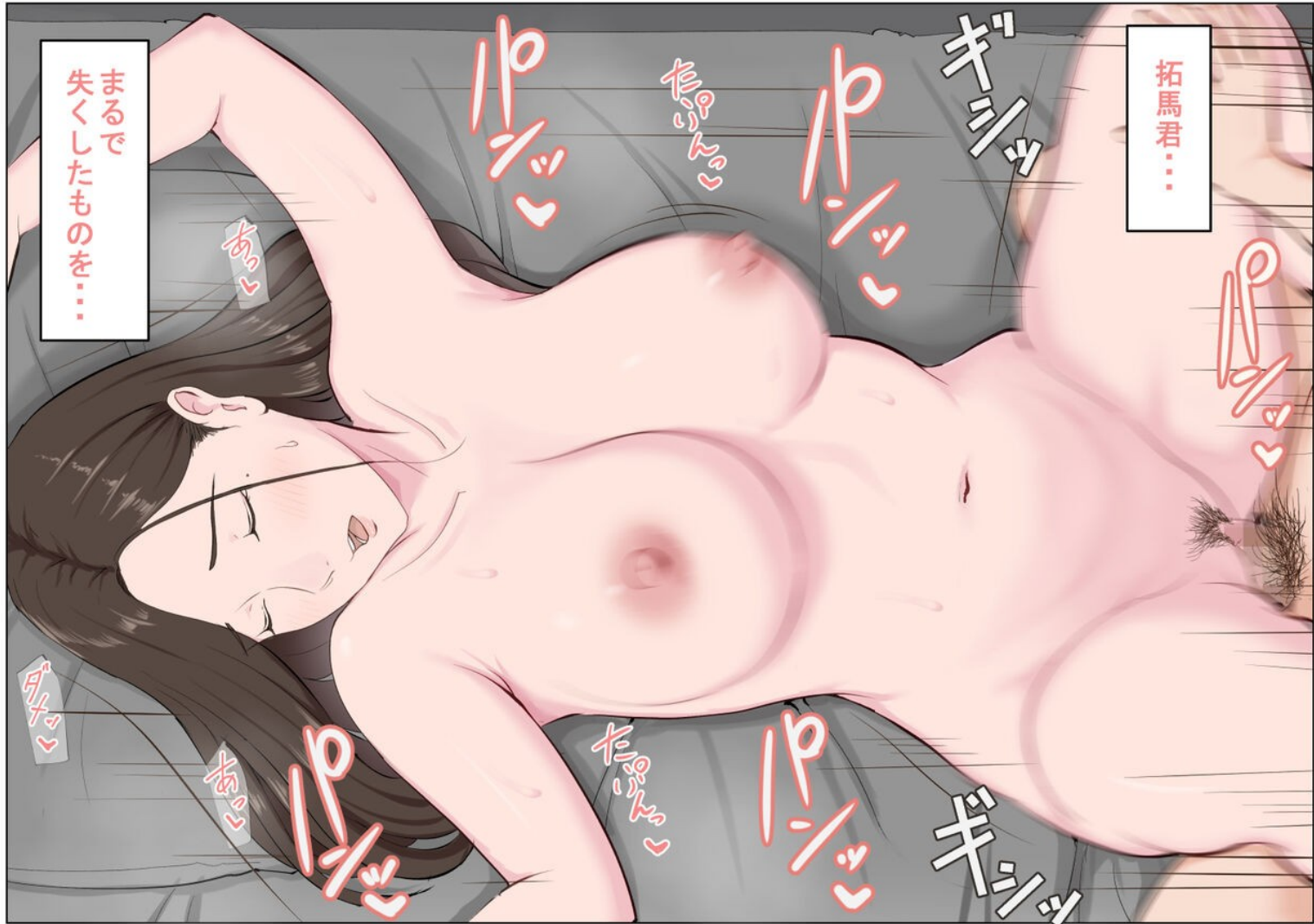
拓馬君っ…♡

あっ…♡



私の肉<sup>からだ</sup>体も…

彼のを受け入れ  
たがってる…



拓馬君...

まるで失くしたものを...

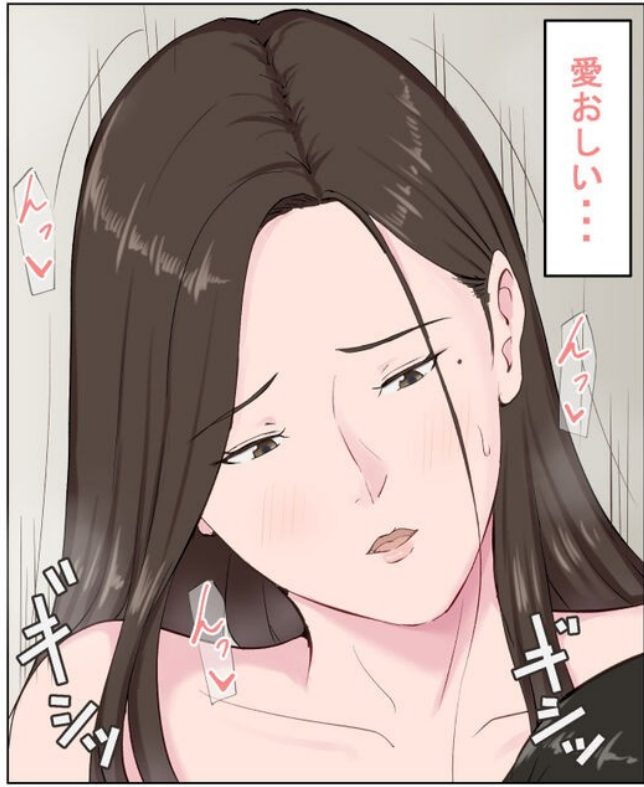


母親と過ごすはずだった時間を...

私の肉体に

必死に甘えてくる...

取り戻そうとするかのように...



愛おしい…



いじらしくて…



叶えてあげたい…



この子の望みを…



赤ちゃん  
出来ちゃうから...

ね...

ちゅっ♡



赤ちゃん...

ちゅっ♡

グッ...



キャッ...!!

っ...!!

グッ...



あっ...♡  
拓馬君...

分かってると  
思うけど...

なか  
だ  
膣内で射精しちゃ  
ダメよ...?!

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

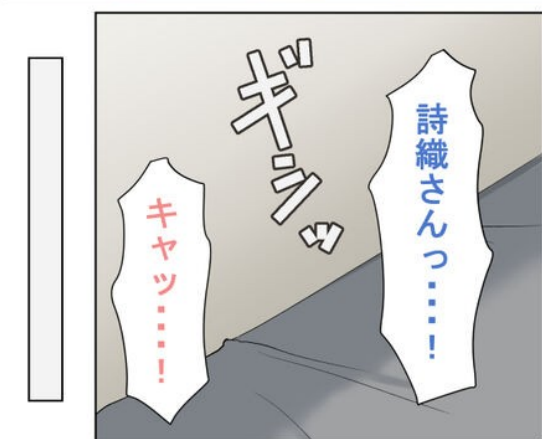
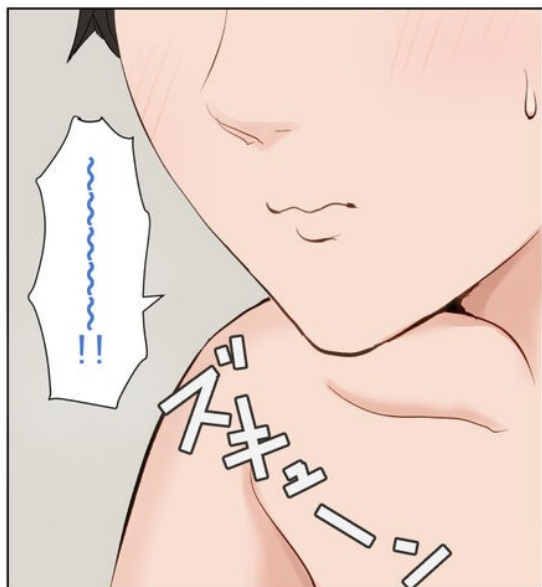
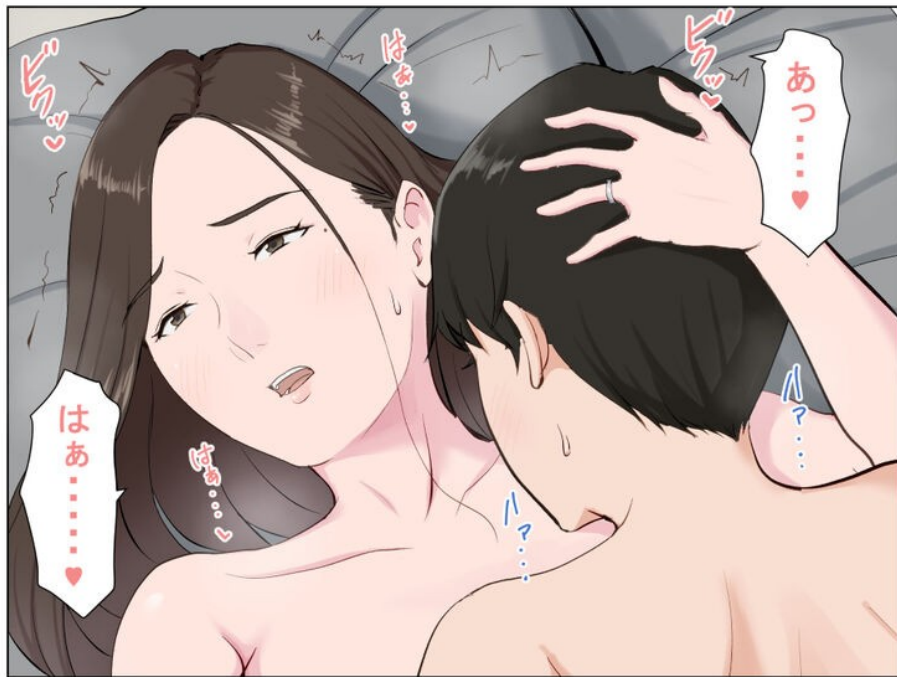
ちゅっ♡

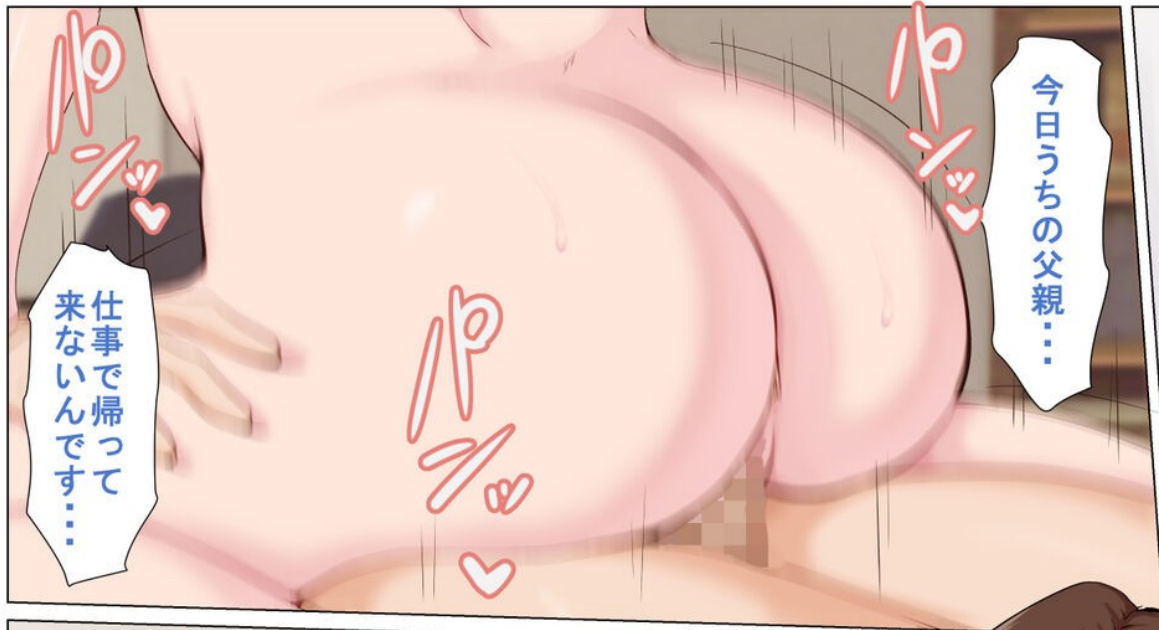
グッ...

グッ...









今日うちの父親……

仕事で帰って  
来ないんです……



あっ……  
詩織さんっ……



今日だけで  
いいからっ……

お願い  
今日だけっ……

あっ……  
ダメッ……

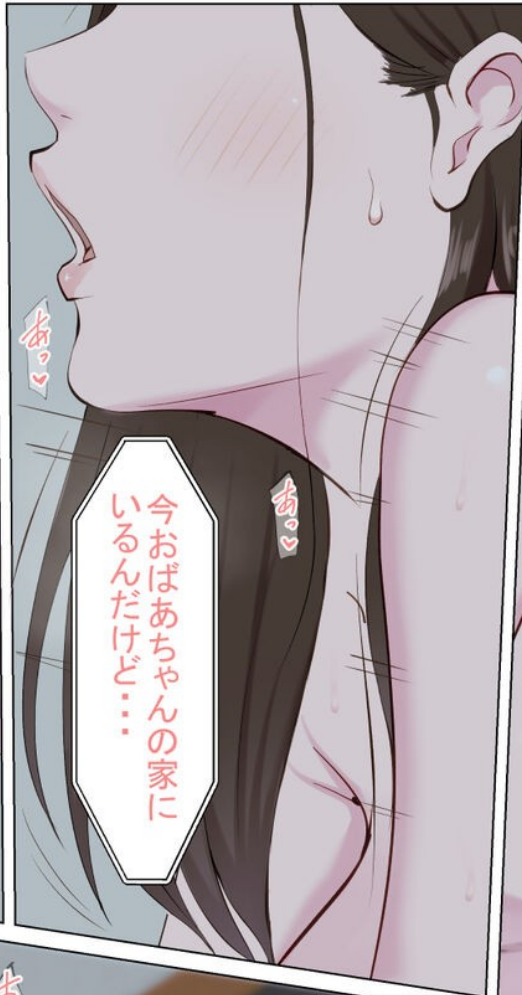


あっ……  
そ、そんなの……

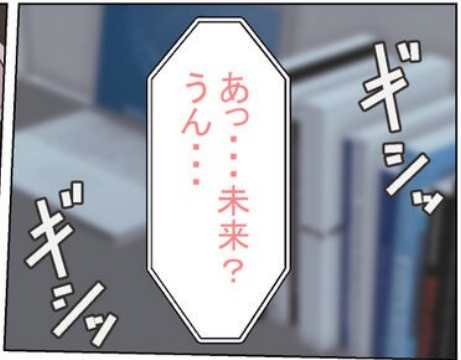
だから……  
泊まっていって  
くれませんか……？

困るわ……





今おばあちゃんの家に  
いるんだけど……



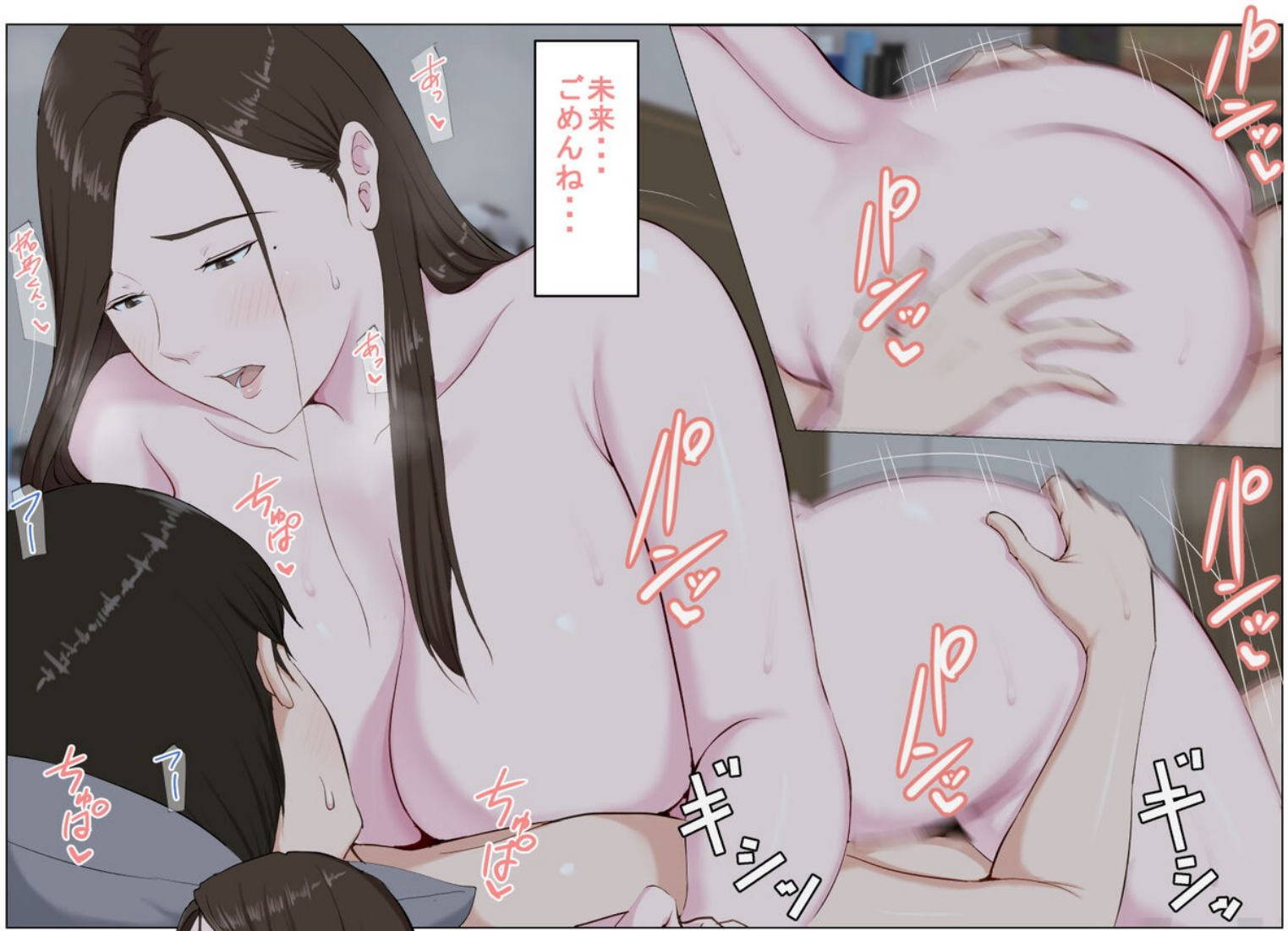
あつ……未来？  
うん……



おばあちゃん  
ちよつと……

体調が悪い  
みたいで……





未来...  
ごめんね...

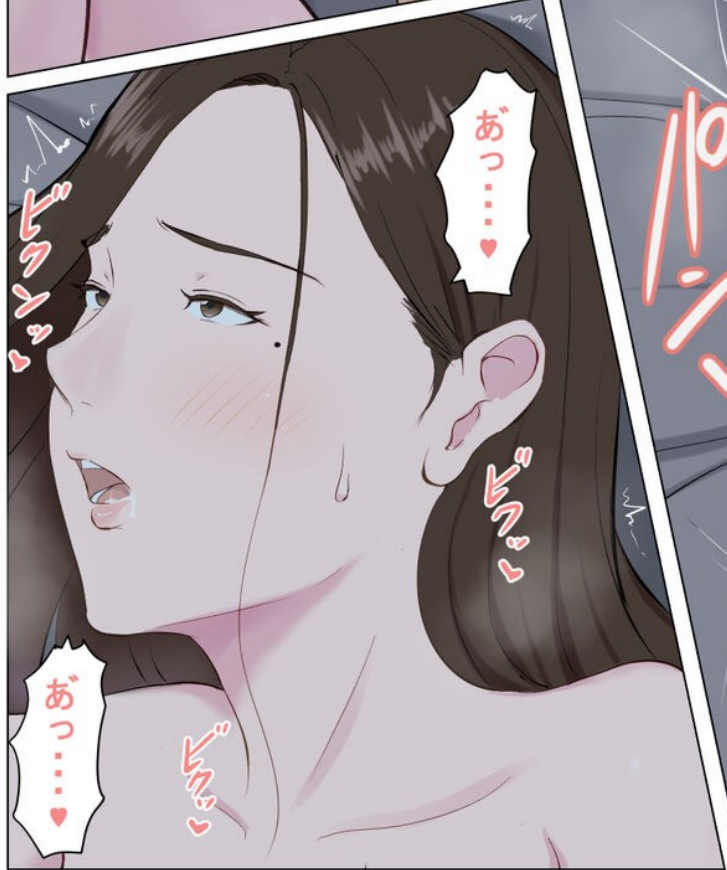


お母さん  
今は...



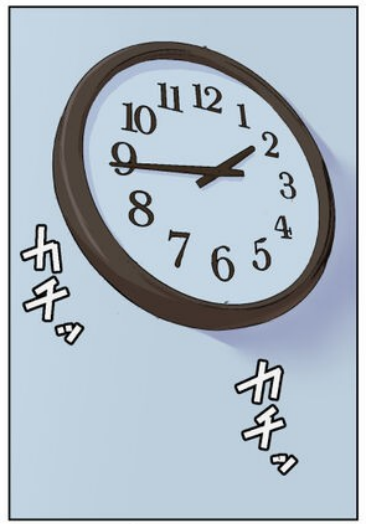
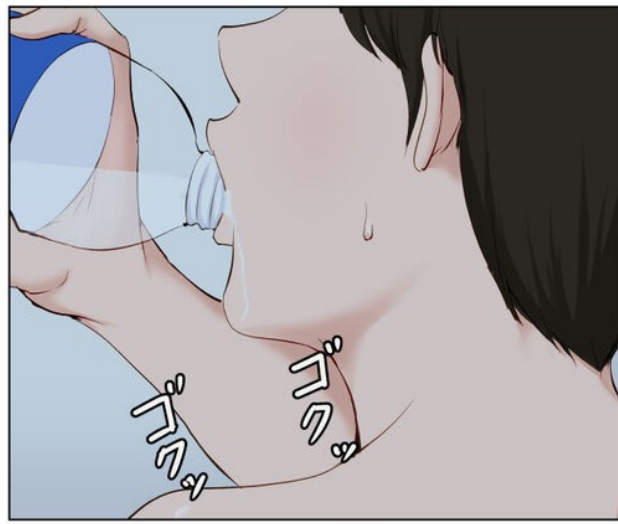
この子の事しか...

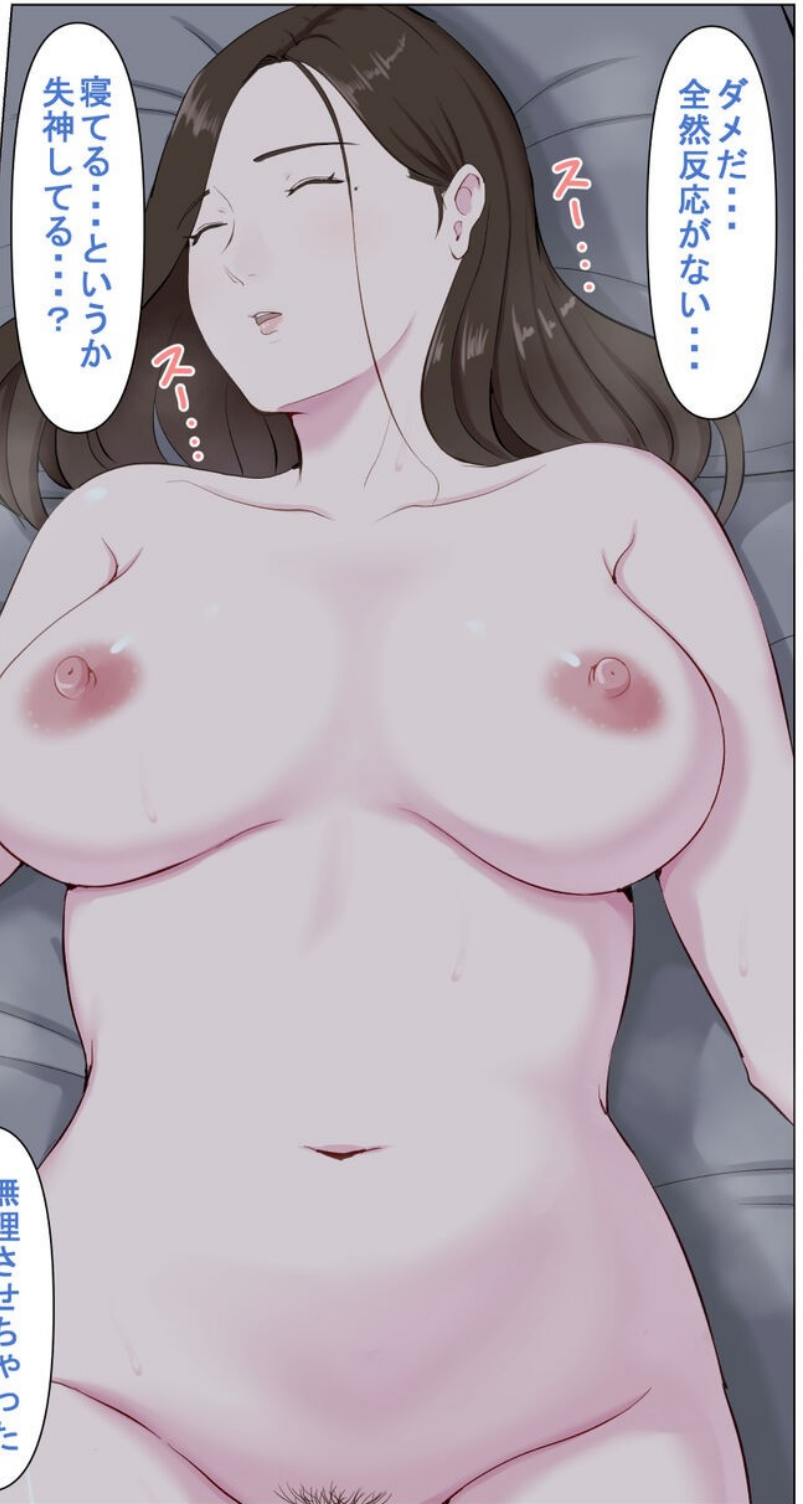
考えられないの.....

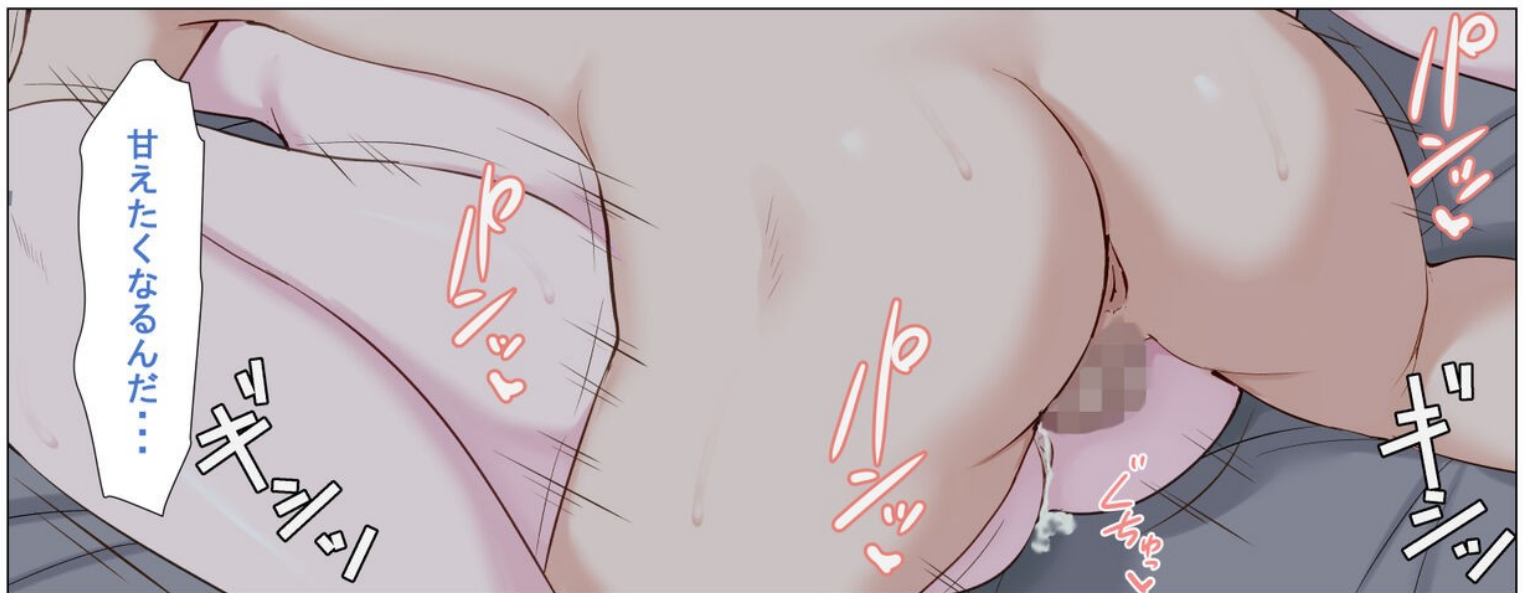
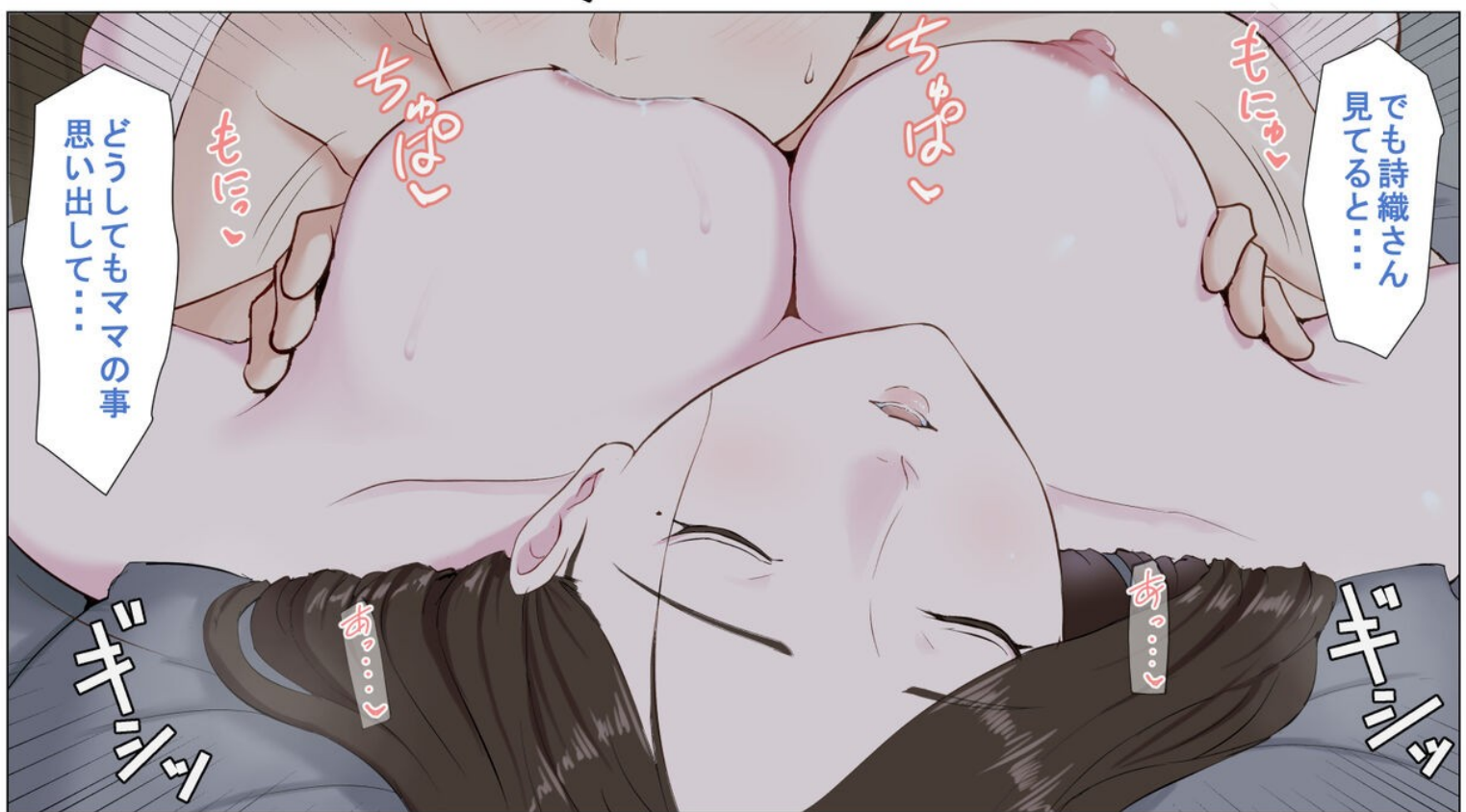


あっ.....♡

あっ.....♡











詩織さん...

孕ませたい...

もにゃん

もにゃん

もにゃん

もにゃん

もにゃん

ギシッ

ギシッ

あ...

あ...



この肉体全部...

からだ

もにゃん

ギシッ

もにゃん

ギシッ

あ...

あ...

ギシッ

俺のものに  
したいっ...





~~~~~  
♥

.....  
.....

♡♡♡

♡♡♡

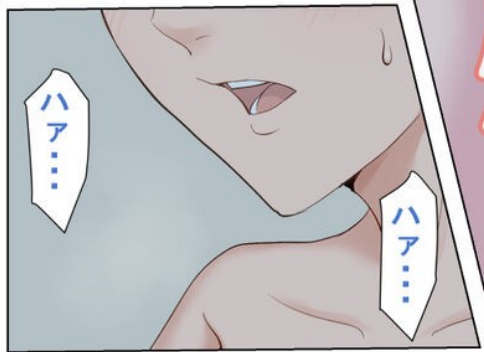
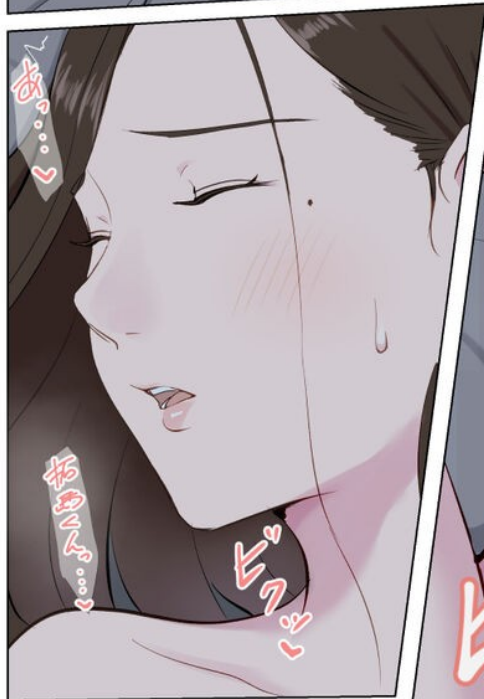
ト  
♡♡♡

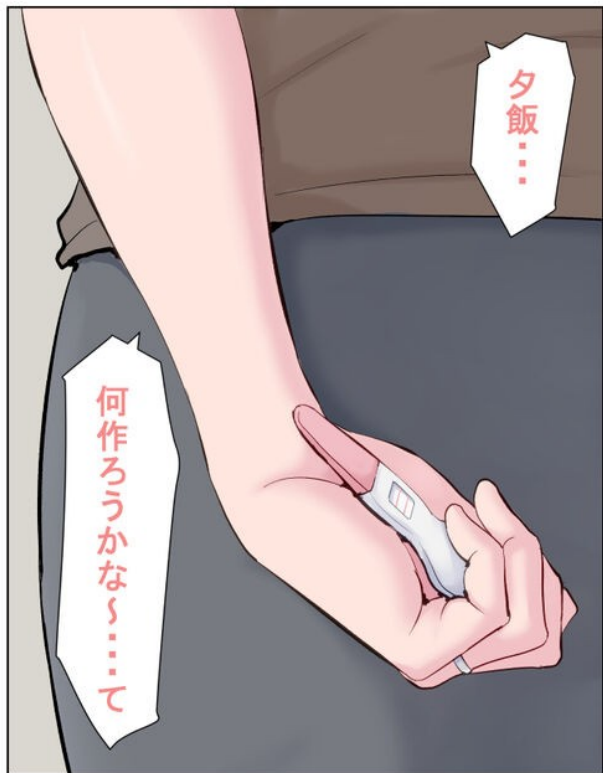
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡







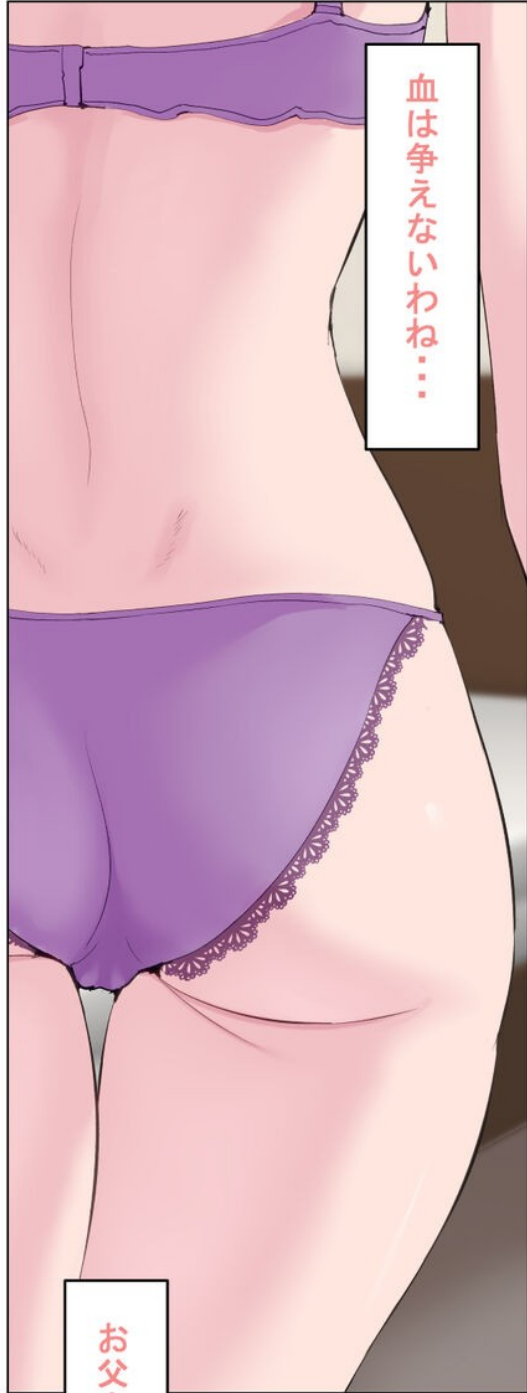
離ればなれだし...

またしばらく...



ねえ...

アナタ...?



血は争えないわね...

お父さん...



久しぶりに  
どうかしら...?

私も夫と娘を  
裏切っている...

し、詩織...  
ムク...



数ヶ月後……

そういえばさあ……

未来のとこの赤ちゃんって  
もうすぐじゃないの？

ん  
もうちょっと  
先かな……

お腹はもう  
おっきいけどね



いいな  
私も弟か妹欲しい

頼んでみれば(笑)

ムリッ!!

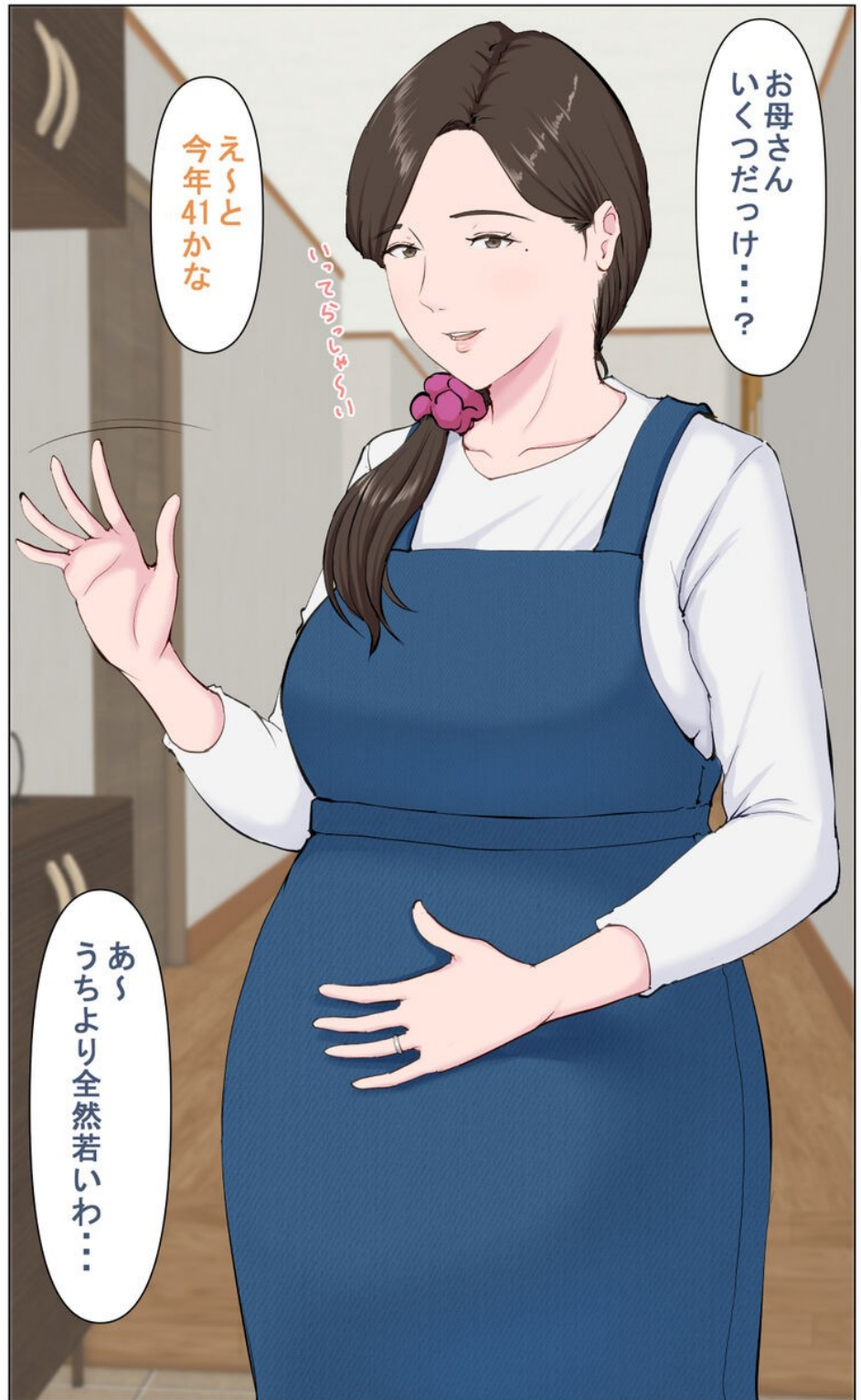
キャー!!

アッ!!



ギョッ

ギョッ

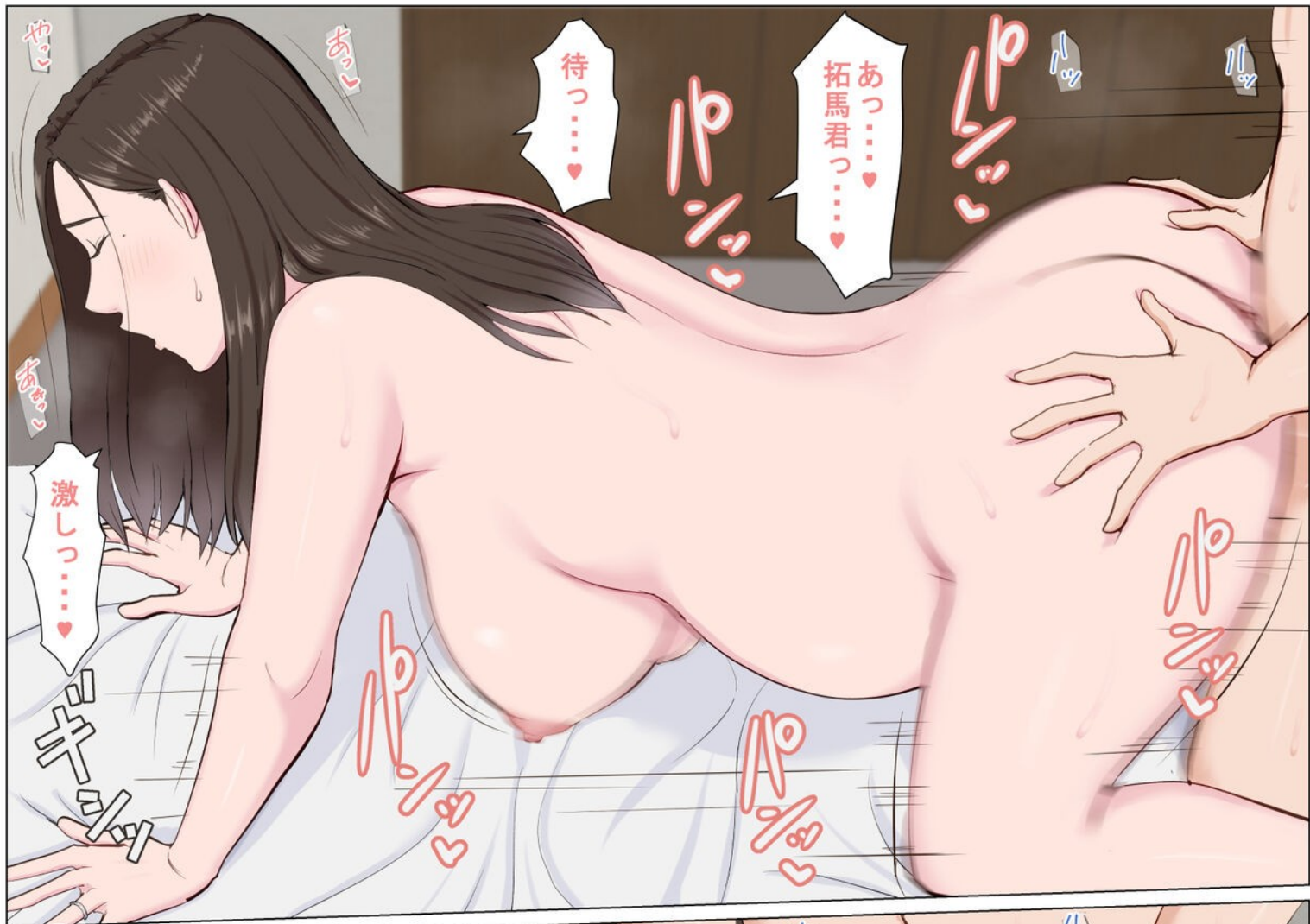


お母さん  
いくつだっけ……？

ええと  
今年41かな

あ  
うちより全然若いわ……









あぁっ……！  
詩織さんっ……！

好きっ……！

好きっ……！

たぽんっ♡

たぽんっ♡

たぽんっ♡

たぽんっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

ハ？



詩織さんのこと……

そ、そんなっ……

無茶言わないで……

たぽんっ♡

たぽんっ♡

たぽんっ♡

たぽんっ♡

たぽんっ♡

もじゅ♡

もじゅ♡

もじゅ♡

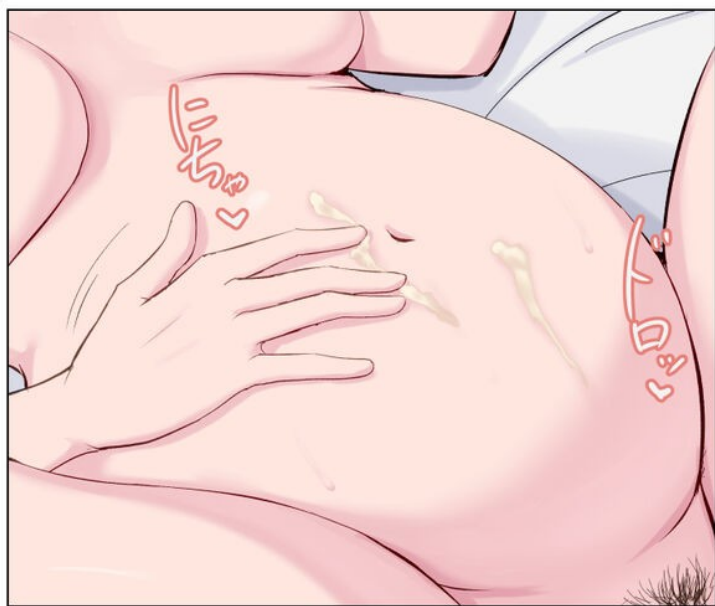
あぁっ♡

ハ？

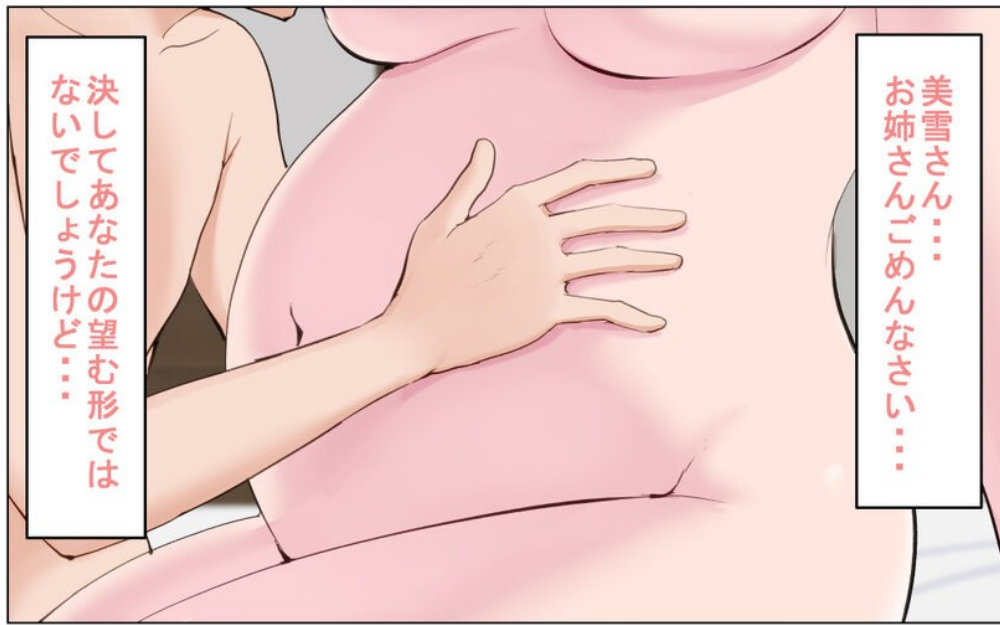
何度でも  
孕ませたいよっ……











決してあなたの望む形では  
ないでしょうけど……

美雪さん……  
お姉さんごめんなさい……



ずっと寂しかったん  
だもんね……

でも、そうよね……



私がずっと  
この子を……

あなたの代わりに



見守って  
いきますから……

いえ、  
この子達を……



# あとがき

どうも、ほーすているです。いつも私の作品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます！

はい、というわけで今回は、彼女の母と見せかけた叔母さんものでございました。  
ネタバレになるので、ジャンルのところに近親とか叔母とか書けませんでした。叔母もの嫌いな人ごめんなさい。

いや～しかし今回は一番苦しみました。  
叔母設定もあんまり活かせてない気がしますし、何より展開が前作とほとんど同じような感じになって、自分の引き出しの無さに途中で制作を投げ出したくなりました。ホントにしんどかった～…。

それとページ数も過去最長になりました。これだけのページ数になると自分の場合、制作が長期間になってしまうので次作は40～50ページくらいでリセットしたいなと考えてます。まだな～んにも考えてませんが……。

とりあえずゆっくりお休みいただいて、またぼちぼち描き始めたいと思っております。気が向いたらまたお付き合いください。  
それと、twitterやpixivなどお返事できなくてごめんなさい。全部読んでます。感謝です！

皆様ご健勝にお過ごしください。  
それではまた。

2022年9月3日

ほーすている